

高知県立大学（高知女子大学）

University of Kochi (Kochi Women's University)

社会福祉学部報

Bulletin of Department of Social Welfare

第13号

2011年

（ 2010年度自己点検評価資料 ）

高知県立大学社会福祉学部

〒781-8515 高知市 池 2751-1

TEL 088-847-8700（代 表）

FAX 088-847-8672（学部専用）

<http://www.u-kochi.ac.jp/>

目 次

I. 2010年度を振り返る

- 1. 2010年度社会福祉学部の概括 1
- 2. 2010年度社会福祉学部の主要行事 3
- 3. 2010年度社会福祉学部時間割 4

II. 社会福祉学部教員の教育研究活動（教育研究活動報告書）

- 1. 小坂田 稔 6
- 2. 杉原 俊二 9
- 3. 住友 雄資 12
- 4. 田中 きよむ 14
- 5. 林 美朗 18
- 6. 前山 智 20
- 7. 宮上 多加子 22
- 8. 黒田 しづえ 24
- 9. 後藤 由美子 26
- 10. 長澤 紀美子 28
- 11. 西内 章 31
- 12. 上白木 悦子 33
- 13. 鈴木 孝典 36
- 14. 西梅 幸治 39
- 15. 三好 弥生 42
- 16. 國重 智宏 44
- 17. 新藤 こずえ 46

Ⅲ. 社会福祉学部教員の委員会活動（委員会活動年度報告書）

| | |
|-------------|----|
| 1. 教務委員会 | 49 |
| 2. 入試委員会 | 50 |
| 3. 学生委員会 | 52 |
| 4. 就職委員会 | 54 |
| 5. 広報委員会 | 56 |
| 6. 地域創成センター | 64 |
| 7. 健康長寿センター | 72 |
| 8. 実習委員会 | 75 |
| 9. 総務・予算委員会 | 76 |

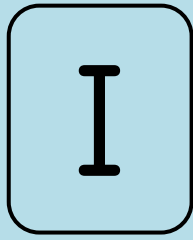
Ⅳ. 学生を中心とした活動

| | |
|------------------|----|
| 1. 国家試験に向けての取り組み | 77 |
| 2. グローカルクラブ | 79 |
| 3. 太鼓部 | 80 |
| 4. 池手話サークル | 81 |
| 5. いけとべ！ | 82 |
| 6. ハモ☆イケ | 83 |
| 7. かんきもん | 84 |

Ⅴ. 卒業論文題目一覧（2010年度）

85

編集後記



2010年を振り返る

2010年度社会福祉学部活動の概括

学部長 前山 智

1. 教員体制

2010年度の社会福祉学部教員数は、学部拡充に伴う新規採用3名と退職者の後任補充1名が加わり、前年度よりも4名増加して17名となる。教員構成としては、教授7名(小坂田・杉原・住友・田中・林・前山・宮上)、准教授4名(黒田・後藤・長澤・西内)、講師4名(上白木・鈴木・西梅・三好)、助教2名(國重・新藤)である。ただし、國重助教は2010年度末に退職した。

2. 学部拡充と学部棟周辺の外構工事

学部拡充に必要な学部棟内改修工事と看護福祉棟内に介護関係実習室の整備が2009年度内に終わり、4月に入学定員増による初めての新生76名が入学し、厚生労働省に認可された介護福祉士養成課程も始まった。残されていた、学部棟や看護福祉棟周辺の駐車場・駐輪場などの外構工事は2010年度末に完成した。

3. 教 育

2010年度に入学した13期生から、国家資格取得のための3つのコース(介護・社会福祉、精神・社会福祉、社会福祉)が適用され、介護・社会福祉コースを選択した学生には、介護福祉士養成教育が開始された。現場実習に関しては、8月から10月にかけて3回生が社会福祉現場実習を、4回生が精神保健福祉援助実習を行い、1月に学生による現場実習報告会、3月に実習先の担当者を招いて実習連絡協議会を開催した。卒業論文に関しては、5月に卒論構想発表会、10月にポスター形式による卒論中間報告会を経て、12月18日締切りで提出され、卒論発表会を2月に開催した。

4. 研 究

研究成果としては、著書3編、論文15編、学会発表21件であり、前年度よりは増加した。科研費は9件応募し、4件採択された。学長裁量プロジェクトとして、「国際ソーシャルワーク教育の開発について」と「高知県における保健・医療・福祉専門職のための学際的教育研修モデル開発について」の調査研究は2010年度で終了した。

5. 自己点検評価とファカルティ・デベロップメント(FD)

自己点検評価資料として位置付けている「社会福祉学部報」第12号(2009年度版)を作成し、冊子化するとともに学部ホームページにおいて公表した。四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)の研修プログラムを遠隔講義システムにより受講した。また、学外の「2010年度全国社会福祉教育セミナー」や「2010年度社会福祉士養成校協会中四国ブロック教員研修会」に参加し研修を行った。

6. 入学生と2011年度入学試験

4月に70名の入学定員となって初めての第13期生75名(県内出身33名)が入学した。2011年度入学試験では、推薦入試に全国から応募できる全国枠を導入して、県内枠と

2010年度を振り返る

全国枠の二本立てとした。定員10名の全国枠推薦入試を設けたことにより、前期入試の定員を10名減らして35名とした。また、2011年度から高知県立大学と名称を変更して男女共学となるため、2011年度入学試験では初めて男子も受験した。

2011年度入学試験の志願倍率は、推薦入試1.9倍(県内1.6/全国2.7)、前期入試4.0倍、後期入試27.0倍であり、2010年度入試に比べ、すべての入試で志願倍率は上昇した。また、全志願者数に占める男子の割合は23%であった。

7. 卒業生と就職

2011年3月に第10期生34名が卒業した。3月末までに、卒業生34名全員の就職が決まった。第10期生の就職先の特徴は、全員が福祉分野(医療施設・福祉施設・福祉系公務員)に就職し、福祉施設の割合が比較的高く、一般企業への就職が皆無であった点である。県内への就職の割合は44%であり、第10期生の県内出身者の割合41%よりも少し高い。

就職や就活に対する意識を高めるために、卒業生を講師とした学部就職セミナーを5月の卒論構想発表会後に開催した。

8. 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験

第10期生が1月初旬に恒例となっている国試直前強化合宿を行い、1月29～30日に実施された第23回社会福祉士国家試験を34名が、第13回精神保健福祉士国家試験を18名が受験した。前者の合格率は88.2%で、順位としては209校中3位であり、初めて80%を超える合格率を達成した。後者の合格率は94.4%で、116校中6位であり、これまでの最高であった第6期生の94.1%をわずかに上回った。

9. 地域貢献活動

「2010年度社会福祉学部リカレント教育講座」として4講座を10月から12月に掛けて土・日曜日に開催し、延べで81名の福祉関係者等の参加があった。7月31日に「2010年度高校生のための公開講座」を開催し、県外からの5名を含め43名の高校生が受講した。また、日本精神保健福祉士協会と協力して、2月に池キャンパスで精神保健福祉士実習指導者講習会を開催した。

10. 広報活動

2011年度からの大学の名称変更と男女共学化、社会福祉学部における全国枠推薦入試の導入と介護福祉士養成の開始について広報するために、社会福祉学部のチラシ第3版を作成して中四国を中心とした高校に配布するとともに、県外出身の1回生32名を夏休み期間中に出身高校を訪問させた。また、学部ホームページによる迅速な学部行事や入試情報等の発信に努めた。

11. 学生の活動

学内では、6月に2～4回生が企画した「新入生歓迎学年間交流会」、2月に3回生が企画した「4回生を送る会」が卒論発表会の終了後に開催された。

学外では、5月に開催された「第12回高知県障害者スポーツ大会」に1回生がボランティアとして大会運営に協力した。社会福祉学部学生が主体であるグローバルクラブが主宰する「グローバルクラブ Japarean」が、8月のよさこい祭りに参加した。

2010年度社会福祉学部の主要行事

| | | |
|-----|--------------|---|
| 4月 | 1日(木) | 辞令交付式(小坂田教授、黒田准教授、三好講師、國重助教) |
| | 6日(火) | 入学式(13期生75名) |
| | 7(水)~9日(金) | 学生ガイダンス |
| | 12日(月) | 前期授業開始(～7月30日) |
| | 21日(水) | 創立記念日/新入生バスハイク(県立香北青少年の家) |
| | 26日(月) | 第1回教授会 |
| 5月 | 19日(水) | 卒論構想発表会No.1/学部就職セミナー |
| | 27日(水) | 卒論構想発表会No.2 |
| | 24日(月) | 第2回教授会 |
| 6月 | 27日(日) | 学年間交流会 |
| | 28日(月) | 第3回教授会 |
| 7月 | 26日(月) | 第4回教授会 |
| | 31日(土) | 2010年度高校生のための公開講座 |
| 8月 | 1日(日) | オープンキャンパス/社会福祉・精神保健福祉現場実習(～10月31日) |
| | 23日(月) | 第5回教授会 |
| 9月 | 28日(火) | 第6回教授会 |
| 10月 | 1日(金) | 後期授業開始(～2月18日) |
| | 20日(水) | 卒論中間発表会 |
| | 25日(月) | 第7回教授会 |
| | 30日(土) | 2010年度リカレント教育講座開講(4講座/11月28日、12月4・18日) |
| 11月 | 8日(月) | 第8回教授会(臨時) |
| | 14日(日) | 推薦入学試験(県内31+全国27名受験) |
| | 22日(月) | 第9回教授会 |
| 12月 | 6日(月) | 第10回教授会(臨時) |
| | 20日(月) | 第11回教授会 / 卒論提出締切 / 国家試験受験激励会 |
| 1月 | 5(水)~7日(金) | 国家試験直前強化合宿(4回生企画、香北青少年の家) |
| | 24日(月) | 第12回教授会 |
| | 27日(木) | 実習報告会 |
| | 29(土)~30日(日) | 第23回社会福祉士国家試験・第13回精神保健福祉士国家試験(34・18名受験) |
| 2月 | 7日(月) | 第13回教授会(臨時) |
| | 21日(月) | 第14回教授会 |
| | 16日(水) | 卒論発表会 / 4回生を送る会(3回生企画) |
| | 25(金)~26日(土) | 前期日程入学試験(134名受験) |
| 3月 | 8日(火) | 実習連絡協議会 |
| | 12日(土) | 後期日程入学試験(73名受験) |
| | 22日(火) | 卒業式(34名卒業) |
| | 28日(月) | 第15回教授会 |

2010年度を振り返る

平成22年度 社会福祉学部 前期 時間割

| H22 年度 | 1 時 限 | | | 2 時 限 | | | 3 時 限 | | | 4 時 限 | | | 5 時 限 | | | |
|-----------|-----------|------------|---------------------------|----------------------------|-------------|----------------------------------|-----------|---------------------|---------------------------------|-----------|-------------|-----------------------------|-----------|--------------|---------------------|---------|
| | 科目 コード | 8:40~10:10 | 教室 | 科目 コード | 10:20~11:50 | 教室 | 科目 コード | 12:50~14:20 | 教室 | 科目 コード | 14:30~16:00 | 教室 | 科目 コード | 16:10~17:40 | 教室 | |
| 月 | 1 | T5804 | コミュニケーション技術(三好) | E102 | E4031 | 英語コミュニケーション I | 揭示 | T5141 | 現代社会と福祉(長澤) | E102 | | | | | | |
| | 2 | 各自 コード | 英語コミュニケーション I | 揭示 | E4041 | 英語コミュニケーション II | 揭示 | T5313 | 福祉NPO論(新藤) | F110 | | | T5605 | 相談援助演習(西内ほか) | E103 | |
| | 3 | T5409 | 社会福祉外書講読 I (長澤) | グル ープ ワーク 実習 室 | T5111 | 社会福祉法制論 (田中) | E103 | | | | | | | | | |
| | 4 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 火 | 1 | T5146 | 社会保障(田中) | E102 | T5150 | 社会理論と社会システム (五里) | E102 | T5139 | 福祉対象入門(住友) | E103 | T5823 | こころからのしくみ I (黒田) | E103 | E1011 | 女性学入門(辻上) | 大講 |
| | 2 | T5145 | 相談援助の理論と方法 (西内・西梅) | F110 | — | 相談援助の理論と方法 (西内・西梅) | F110 | T5148 | 人体の構造と機能 及び疾病(林) | E102 | T5606 | 相談援助実習指導 (西内ほか) | E102 | T5507 | 福祉研究法(住友) | E102 |
| | 3 | | | | T5306 | 医療福祉論(上白木) | A219 | T5307 | 精神保健福祉論(鈴木) | F110 | | | | | | |
| | 4 | | | | T5716 | 精神科リハビリテーション学 (国重)(3回生後期~)19人 | 観察室 | | | | | | | | | |
| 水 | 1 | E3004 | 健康スポーツ科学 I (清原・未定) | 体育 館 | E1110 | 音楽入門(門脇) | 大講 | E1201 | 日本国憲法(岩倉) | A306 | E1102 | 心の科学(窪口) | A306 | E1307 | 生活デザインの世界(井本) | A306 |
| | 2 | | | | T5610 | 児童や家庭に対する支援と 児童・家庭福祉制度(杉原) | F110 | T5144 | 地域福祉の理論と方法 (小坂田) | F110 | | | | | | |
| | 3 | T5207 | 社会福祉援助技術演習Ⅲ (住友) | 観察 室 | T5222 | 医療ソーシャルワーク論 (上白木) | E102 | | | | T5415 | 福祉研究演習 I (担当教員) | | | | |
| | 4 | | | | | | | T5152 | 権利擁護と成年後見制度 (上村) | E102 | | | | T5417 | 福祉研究演習Ⅲ (担当教員) | |
| 木 | 1 | E1004 | 土佐の健康と福祉 | A306 | — | 英語コミュニケーション I | 揭示 | E1103 | 哲学入門(原嶋) | A306 | E1111 | 日本近現代史(非常勤) | A306 | | | |
| | 2 | E1202 | 暮らしと経済学(紺屋) | A305 | | | | E1212 | 現代社会論(田中) | A305 | | | | | | |
| | 3 | — | 英語コミュニケーション I | 揭示 | E4051 | 英語コミュニケーションⅢ | 揭示 | T5311 | 子育て支援論(杉原) | F110 | | | | | | |
| | 4 | T5999 | 精神保健福祉援助実習 (鈴木・国重・住友) | 観察 室 | T5203 | 社会福祉援助技術各論Ⅱ- a(西梅) | E103 | T5135 | ケアマネジメント論 (上白木) | E103 | T5502 | 社会福祉現場実習Ⅱ (西内ほか) | 観察 室 | T5503 | 社会福祉現場実習Ⅲ (西内ほか) | 観察 室 |
| 金 | 1 | T5149 | 心理学理論と心理的支援 (川崎) | 大講 | T5813 | 介護総合演習 I (後藤・黒田・三好) | F110 | T5411 | 社会福祉入門演習 (上白木・三好) | F110 | E2003 | コンピュータリテラシー(前山) ※介護コース含む | A204 | E2003 | コンピュータリテラシー(前山) | A204 |
| | 2 | T5817 | 発達と老化の理解 I (黒田・林) | F110 | | | | T5609 | 障害者に対する支援と 障害者自立支援制度 (新藤) | E103 | | | | — | コミュニケーション技術(三好) | A219 |
| | 3 | T5147 | 低所得者に対する支援と 生活保護制度(田中) | E103 | T5608 | 高齢者に対する支援と介護 保険制度(宮上・西内) | E103 | T5706 | 高齢者保健論(宮上) | E102 | T5712 | 精神保健学(林) | E102 | | | |
| | 4 | T5125 | 女性福祉論(長澤) | E102 | T5715 | 精神医学(林) | E102 | | | | | | | | | |
| 前 期 | 集中 講義 | 科目 コード | 科目名・教員名等 | 教室 | 開講月日 | 集中 講義 | 科目 コード | 科目名・教員名等 | 教室 | 開講月日 | | | | | | |
| | | T5418 | 地域福祉活動 I (宮上・田中・杉原・林) | 揭示 | 掲 示 | | T5305 | 高齢者福祉論Ⅱ(西内) | 揭示 | 掲 示 | | | | | | |
| | | T5154 | 就労支援サービス(野中) | 揭示 | 掲 示 | | E3001 | 心とからだの科学 (本間・川崎) | 揭示 | 掲 示 | | | | | | |
| | | T5414 | 福祉研究法Ⅱ(新藤) | 揭示 | 掲 示 | | | | | | | | | | | |
| | | T5205 | 社会福祉援助技術演習 I (西梅) | 揭示 | 掲 示 | | | | | | | | | | | |
| | | T5119 | 高齢者福祉論Ⅰ(西内) | 揭示 | 掲 示 | | | | | | | | | | | |

注()内の人名は担当教員。下線を付した者は非常勤講師。

| | |
|------------|--|
| 社会・介護コース合同 | 【備考】*1 受講登録は、前期集中で登録すること |
| 共通教育科目 | ※教室名で「大講」と表記しているのは、共用棟「大講義室」です。「体中講」と表記しているのは、「体育館中講義室」です。 |
| 介護コースのみ | ※教室名でAは「本部・健康栄養学部棟」、Eは「社会福祉学部棟」、Fは「看護福祉棟」を表しています。 |
| 社会コースのみ | ※科目コード欄が「—」になっている科目は、受講登録不要です。(受講登録してはいけません。) |

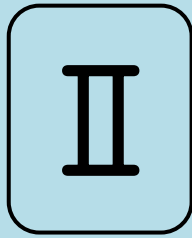
2010年度を振り返る

平成22年度 社会福祉学部 後期 時間割

| H22年度 | 1 時 限 | | 2 時 限 | | 3 時 限 | | 4 時 限 | | 5 時 限 | | | | | | | |
|-------|-------|-----------------------|----------------------------|----------------|---------------------------------|----------------------------|-------|--------------------|---------------------------------|-------|--------------------|----------------------|-------|---------------------|-------------------|------|
| | 科目コード | 8:40~10:10 | 教室 | 科目コード | 10:20~11:50 | 教室 | 科目コード | 12:50~14:20 | 教室 | 科目コード | 14:30~16:00 | 教室 | 科目コード | 16:10~17:40 | 教室 | |
| 月 | 1 | | | 各自コード E4041 | 英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II | 揭示 | — | 介護の基本 I (後藤) | E103 | T5805 | 社会福祉ふれあい実習 (西内ほか) | E103 | | | | |
| | 2 | 各自コード | 英語コミュニケーション I | 揭示 | E4041 | 英語コミュニケーション II | 揭示 | T5157 | 介護技術 (黒田) | F110 | T5506 | 精神保健福祉ふれあい実習 (鈴木・國重) | 観察室 | — | 相談援助演習 (西内ほか) | E103 |
| | 3 | | | | T5134 | 社会福祉行政論 (田中) | E102 | T5208 | 社会福祉援助技術演習IV (小坂田) | E102 | | | | | | |
| | 4 | | | | T5137 | 事例研究法 (西内) | F110 | | | | | | | | | |
| 火 | 1 | — | 社会保障 (田中) | E102 | — | 現代社会と福祉 (長澤) | E102 | T5412 | 社会福祉基礎演習 (上白木・三好) | E103 | T5806 | 生活支援技術 II (三好) | F110 | — | 生活支援技術 II (三好) | F110 |
| | 2 | — | 相談援助の理論と方法 (西内・西梅) | F110 | — | 相談援助の理論と方法 (西内・西梅) | F110 | T5151 | 保健医療サービス (林) | E102 | — | 相談援助実習指導 (西内ほか) | E102 | | | |
| | 3 | | | | — | 精神保健福祉論 (鈴木) | E103 | T5716 | 精神科リハビリテーション学 (國重) (〜4回生前期) * 1 | 観察室 | — | 精神医学 (林) | E103 | T5128 | 社会福祉施設経営管理論 (吉永) | E103 |
| | 4 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 水 | 1 | T5142 | 相談援助の基盤と専門職 (西梅) | E102 | — | 相談援助の基盤と専門職 (西内) | E102 | T5420 | 社会福祉特別演習 I (前山) | A204 | E3005 | 健康スポーツ科学 II (清原・宮本) | 体育館 | T5807 | 生活支援技術 III (黒田) | F110 |
| | | T5805 | 生活支援技術 I (後藤) | E103 | — | 生活支援技術 I (後藤) | E103 | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | T5133 | 社会福祉史 (住友) | 観察室 | — | 地域福祉の理論と方法 (小坂田) | E102 | | | | | | |
| | 3 | T5210 | 精神保健福祉援助演習 (住友芳・鈴木・國重・住友雄) | F110 | — | 精神保健福祉援助演習 (住友芳・鈴木・國重・住友雄) | F110 | T5209 | 精神保健福祉援助技術各論 (住友) | E103 | T5416 | 福祉研究演習 II (担当教員) | | | | |
| 4 | | | | T5308 | 国際福祉論 II (長澤) | E104 | | | | | | | — | 福祉研究演習 III (担当教員) | | |
| 木 | 1 | E1013 | 女性の生活と健康 | 大講 | — | 英語コミュニケーション I | 揭示 | E1101 | 倫理学 (原嶋) | 大講 | E1108 | 日本語の表現技術 (池) | A306 | E1303 | 物理の考え方 (原) | A306 |
| | | | | | | | | E1109 | 文学の世界 (芋生) | A318 | E2002 | 情報処理概論 (名和) | A305 | E2002 | 情報処理概論 (名和) | A305 |
| | | | | | | | | | | | E1309 | 生活の中の科学 (団野) | A319 | | | |
| | 2 | — | 英語コミュニケーション I | 揭示 | — | 英語コミュニケーション III | 揭示 | T5312 | 虐待防止論 (杉原) | E102 | | | | | | |
| 3 | T5204 | 社会福祉援助技術各論 II-α (小坂田) | E103 | — | 精神保健福祉援助実習 (鈴木・國重・住友) | 観察室 | T5219 | ケアマネジメント演習 (上白木) | E103 | — | 社会福祉現場実習 II (西内ほか) | 観察室 | — | 社会福祉現場実習 III (西内ほか) | 観察室 | |
| 4 | | | | — | 精神保健福祉援助実習 (鈴木・國重・住友) | 観察室 | | | | | | | | | | |
| 金 | 1 | — | 介護総合演習 I (後藤・黒田・三好) | F110 | T5802 | 介護の基本 II (後藤) | F110 | — | 介護の基本 II (後藤) | F110 | — | 生活支援技術 III (黒田) | F110 | — | 生活支援技術 III (黒田) | F110 |
| | | | | | | | | T5608 | 高齢者に対する支援と介護保険制度 (宮上・森下) * 1 | E102 | | | | | | |
| | 2 | | | | T5508 | 社会調査の基礎 (宮上・鈴木) | E102 | T5136 | 面接技法 (杉原) | 観察室 | | | | | | |
| | 3 | | | | T5410 | 社会福祉外書講読 II (長澤) | E103 | — | 精神保健福祉論 (鈴木) | E103 | T5124 | 国際福祉論 I (長澤) | E103 | — | 精神保健福祉援助技術各論 (杉本) | E103 |
| 4 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 後期 | 集中講義 | 科目コード | 科目名・教員名等 | 教室 | 開講月日 | 集中講義 | 科目コード | 科目名・教員名等 | 教室 | 開講月日 | | | | | | |
| | | T5419 | 地域福祉活動 II (宮上・田中・杉原・林) | 揭示 | 掲 示 | | E1103 | 土佐の自然と暮らし (未定) | 揭示 | 掲 示 | | | | | | |
| | | シラバス | 社会福祉特別演習 II-III-IV | 揭示 | 掲 示 | | E1306 | 地球の科学 (一色・大村 (代表)) | 揭示 | 掲 示 | | | | | | |
| | | T5304 | 障害者福祉論 II (新藤) | 揭示 | 掲 示 | | | | | | | | | | | |
| | | T5303 | 児童福祉論 II (杉原) | 揭示 | 掲 示 | | | | | | | | | | | |
| | | T5202 | 社会福祉援助技術各論 I-α (上白木) | 揭示 | 掲 示 | | | | | | | | | | | |

注 ()内の人名は担当教員。下線を付した者は非常勤講師。

- 社会・介護コース合同 【備考】*1 平成23年度前期に開講される同科目の講義を合せて受講すること
- 共通教育科目 ※教室名で「大講」と表記しているのは、「大講義室」です。「体中講」と表記しているのは、「体育館中講義室」です。
- 介護コースのみ ※教室名でAは「本部・健康栄養学部棟」、Eは「社会福祉学部棟」、Fは「看護福祉棟」を表しています。
- 社会コースのみ ※科目コード欄が「—」になっている科目は、受講登録不要です。(受講登録してはいけません。)



社会福祉学部教員の教育研究活動
(教育研究活動報告書)

社会福祉学部 社会福祉学科 教員一覧

| 職 位 | 氏 名 | 学 位 | 専 門 分 野 |
|-----|--------|-------------------|---------------------------|
| 教 授 | 小坂田 稔 | 博 士 (学 術) | 地 域 福 祉 論 |
| 教 授 | 杉原 俊二 | 博 士 (医 学) | 児 童 福 祉 論 |
| 教 授 | 住友 雄資 | 博 士 (臨 床 福 祉) | 精 神 保 健 福 祉 援 助 技 術 |
| 教 授 | 田中 きよむ | 修 士 (経 済 学) | 福 祉 行 財 政 論 |
| 教 授 | 林 美 朗 | 博 士 (医 学 ・ 文 学) | 精 神 医 学 |
| 教 授 | 前 山 智 | 博 士 (工 学) | 情 報 教 育 / X 線 分 光 |
| 教 授 | 宮上 多加子 | 博 士 (社 会 福 祉 学) | 介 護 福 祉 学 |
| 准教授 | 黒田 しづえ | 修 士 (人 間 科 学) | 介 護 福 祉 論 |
| 准教授 | 後藤 由美子 | 修 士 (社 会 福 祉 学) | 介 護 福 祉 論 |
| 准教授 | 長澤 紀美子 | 博 士 (学 術) | 福 祉 政 策 論 / 国 際 比 較 研 究 |
| 准教授 | 西内 章 | 修 士 (社 会 福 祉 学) | 社 会 福 祉 援 助 技 術 論 |
| 講 師 | 上白木 悦子 | 博 士 (医 学) | 医 療 福 祉 論 |
| 講 師 | 鈴木 孝典 | 博 士 (人 間 学) | 精 神 保 健 福 祉 論 |
| 講 師 | 西梅 幸治 | 博 士 (福 祉 社 会 学) | 社 会 福 祉 援 助 技 術 論 |
| 講 師 | 三好 弥生 | 修 士 (社 会 学) | 介 護 福 祉 論 |
| 助 教 | 國重 智宏 | 修 士 (社 会 福 祉 学) | 精 神 科 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 学 |
| 助 教 | 新藤 こずえ | 修 士 (教 育 学) | 障 害 者 福 祉 論 / N P O 論 |

小坂田 稔

Minoru OSAKADA

○研究活動

（1）論文（1件）

小坂田稔(2011)「公共経営としての地域包括ケアシステムの意義」『高知女子大学紀要（社会福祉学部編）』第60巻, pp.1-20.

○教育活動

（1）学部

- ・「地域福祉の理論と方法」「社会福祉援助技術各論Ⅱ - b」「社会福祉援助技術演習Ⅳ」「相談援助実習指導」「社会福祉現場実習Ⅱ・Ⅲ」「福祉の世界」

○委員会活動

【全学】共通教育委員

【学部】社会福祉士養成校協会担当
教務委員会委員
実習委員会委員

○社会的活動

（1）委員等

- ・高知県社会福祉審議会副会長
- ・岡山県介護予防市町村支援委員会委員長
- ・岡山県津山市地域包括ケア会議会長
- ・岡山県久米南町地域福祉計画策定委員会委員長
- ・岡山県美作市社会福祉協議会地域福祉活動計画策定委員会委員長
- ・岡山県福祉移送特区津山・真庭・勝英地区運営協議会会長

（2）各種研修講師等

- ・「地域福祉のカタチを作る力」
（高知県社会福祉協議会「高知型地域支援ワーカー研修」）
平成23年1月26日(水)
- ・「これからの地域支援の在り方～社会福祉士に求められる地域支援とは～」
（高知県・愛媛県・香川県・徳島県社会福祉士会「平成22年度四国地区社会福祉士合同研修会」）
平成22年12月5日(日)
- ・「今求められる『地域包括ケアシステム』」
（高知学長会議 4大学県民講座実行委員会「4大学県民講座「自分らしく生きる」）
平成22年12月12日(日)
- ・「地域包括支援ネットワークシステムの目指すものと社協の果たすべき役割」
（高知県社会福祉協議会「市町村社協役職員研修会」）
平成23年3月7日(月)講義・演習
- ・「支援センターにおける地域資源の活かし方」(静岡県地域包括・在宅介護支援センター協議会「地域包括・在宅介護支援センター等交流研修」)
平成22年8月18日(水)講義・演習

教育研究活動報告書（小坂田 稔）

- ・「住民主体のまちづくりと地域福祉活動」（岡山県真庭市社会福祉協議会）
平成 22 年 12 月 10 日（金）
- ・「コミュニティワークについての理解」講義・演習
（岡山県社会福祉協議会「社協コミュニティワーカー養成講座」）
平成 22 年 8 月 25 日（水）・12 月 27 日（月）
- ・「誰もがいきいきとした暮らしづくりに向けて」
（兵庫県赤穂市社会福祉協議会「第 26 回市民福祉講座」）
平成 22 年 7 月 24 日（土）
- ・「地域ケア会議の役割と今後の在り方」（岡山県赤磐市「赤磐市職員研修」）
平成 23 年 3 月 24 日（木）
- ・「地域包括ケア研究会報告書を読み解く～岡山モデルとの違いを考えよう」
（岡山県社会福祉協議会「平成 22 年度 地域包括ケアシステムセミナー」）
平成 23 年 3 月 9 日（日）
- ・「地域ケアシステムについて～住み慣れた地域でいきいきと～」
（岡山県津山市「津山市介護保険事業者連絡協議会・居宅介護支援事業者部会研修会」）
平成 23 年 2 月 4 日（金）
- ・「見守りから支え合いへ」（岡山県真庭市社会福祉協議会「地域福祉推進委員研修会」）
平成 22 年 12 月 10 日（金）
- ・「地域の支え合いとは何か～有償運送を切り口に考える」
（移動ネットおかやま「中四国移動支援セミナー」）
平成 23 年 2 月 27 日（日）
- ・「これからの地域福祉活動と民生委員・児童委員の役割」
（岡山市「岡山市民生委員・児童委員新任研修」）
平成 23 年 3 月 16 日（水）

○総合評価と今後の課題

（1）教育活動について

学生に地域福祉実践についての深い関心と理解を進めていくために、具体的な事例を提供し、これを基にした授業展開に取り組んだ。いずれの授業も学生からの評価は高いものを得たが、今後もより深い理解を進めていくためには、自身による実践のさらなる展開と地域における先進的な取り組みに学んでいくことが必要である。このため、より積極的なフィールドワークへの取り組みが必要といえる。

また、本年度は、2年生を対象に自主ゼミに取り組んだ。（14名の学生の参加）高知県内の事例や取り組みを中心として、学びの整理を行うとともに、中山間地の視察を行った。これにより高知県の現状の理解とともに知識の整理が行えた。

（2）研究活動について

・「地域包括ケアシステム」について

これまで進めてきた「地域包括ケアシステム」について、地域での具体的な実践を基により理論的な考察を進めた。特に今年度は、公共経営の視点から研究を深め、「あらたな公共」としての「地域包括ケアシステム」の意義を明らかにした。

・中山間地における地域福祉のあり方

高齢化・過疎化の進む中山間地における地域福祉をどう進めていくのかについて、岡山県津山市加茂物見地区での聞き取り調査を行った。さらに津山市中心部における高齢化率の高い城東地区との比較調査を通して、高齢化の進む農村部と市部地域での地域福祉のあり方について研究を進めた。

（3）社会活動について

・「高知県地域福祉支援計画」の策定

「高知県地域福祉支援計画」の策定に取り組んだ。本計画は、今後の高知県における地域福祉推進の土台となる計画であり、地域包括ケアシステムをその中核に据え、「高知型地域福祉」のあり方およびその方向を明示することができた。今後は、本計画を基に、各市町村が「地域福祉計画」を、市町村社会福祉協議会が「地域福祉活動計画」策定に取り組んでいくこととなる。さらにこの計画に基づく地域福祉を実践していくための人材育成を行っていくために「高知型地域支援ワーカー研修」（高知県社会福祉協議会主催）に関わった。今後は、研修修了者を対象とした演習や事例検討の研修を進めていく。

・活動評価事業の推進

岡山県介護予防市町村支援委員会の取り組みとして進めてきた「活動評価事業」の推進に取り組んだ。岡山県下の地域包括支援センターの職員・社会福祉協議会の職員を対象として、開発した評価シートによる活動評価の手法の研修を行った。こうした研修の積み重ねにより、漠然と行っていた活動や事業について、P D C Aサイクルによる評価ができるようになり、成果や課題が明確になり、これを基にした事業や活動展開が行えるようになってきた。

・地域福祉計画・地域福祉活動計画の策定

岡山県美作市社会福祉協議会の「美作市地域福祉活動計画」及び岡山県久米南町の「久米南町地域福祉計画」、久米南町社会福祉協議会の「久米南町地域福祉活動計画」、岡山県真庭市社会福祉協議会の「真庭市第2次地域福祉活動計画」策定に関わった。策定委員会の統括とともに、地域座談会への参加、アンケート調査票の作成・分析・整理、地域住民への説明会、策定内容の指導等、一連の計画策定のプロセスに関わり、計画を策定した。

杉原 俊二

Shunji SUGIHARA

○研究活動

（１）学術論文

（原著）※査読有り（１件）

1. 杉原俊二「自分史分析に関する一考察（Ⅷ）－うつ経験者の４テーマ分析法によるライフストーリーの生成」『高知女子大学大学研究紀要（社会福祉学部編）』60, 21-42.
(2011年3月)

（研究ノートなど）（20件）

1. 杉原俊二「４テーマ分析法による自分史分析（４）－学者Mの短大講師への道（後篇）」『質的研究法』49, 2-7. (2010年4月)
2. 杉原俊二「４テーマ分析法による自分史分析（５）－学者Mの講師から助教授へ（前篇）」『質的研究法』50, 2-7. (2010年5月)
3. 杉原俊二「自分史分析の研究（47）－F Tさんの医業再開（前篇）」『人間科学』35, 2-7. (2010年6月)
4. 杉原俊二「自分史分析の研究（48）－F Tさんの医業再開（中篇）」『人間科学』35, 8-13. (2010年6月)
5. 杉原俊二「４テーマ分析法による自分史分析（６）－学者Mの講師から助教授へ（中篇）」『質的研究法』51, 2-7. (2010年6月)
6. 杉原俊二「肩書を通して語る自分史（Ⅰ）－こころのフィールドノート（12）」『質的研究法』52, 8-13. (2010年7月)
7. 杉原俊二「肩書を通して語る自分史（Ⅱ）－こころのフィールドノート（13）」『質的研究法』53, 8-13. (2010年8月)
8. 杉原俊二「自分史分析の研究（49）－F Tさんの医業再開（後篇）」『人間科学』36, 2-7. (2010年9月)
9. 杉原俊二「自分史分析の研究（50）－F Tさんの自分史振り返り」『人間科学』36, 8-13. (2010年9月)
10. 杉原俊二「肩書を通して語る自分史（Ⅲ）－こころのフィールドノート（14）」『質的研究法』54, 8-13. (2010年9月)
11. 杉原俊二「肩書を通して語る自分史（Ⅳ）－こころのフィールドノート（15）」『質的研究法』55, 8-13. (2010年10月)
12. 杉原俊二「肩書を通して語る自分史（Ⅴ）－こころのフィールドノート（16）」『質的研究法』56, 8-13. (2010年11月)
13. 杉原俊二「うつ経験者の４テーマ分析法（１）－Rさんの経歴」『人間科学』37, 2-7.
(2010年12月)
14. 杉原俊二「うつ経験者の４テーマ分析法（２）－Rさんの中学・高校時代」『人間科学』37, 8-13. (2010年12月)
15. 杉原俊二「肩書を通して語る自分史（Ⅵ）－こころのフィールドノート（17）」『質的研究法』57, 8-13. (2010年12月)
16. 杉原俊二「４テーマ分析法による自分史分析（７）－学者Mの講師から助教授へ（後篇）」『質的研究法』58, 2-7. (2011年1月)

17. 杉原俊二「4テーマ分析法による自分史分析（8）－学者Mの博士号取得と結婚（前篇）」『質的研究法』59, 2-7.（2011年2月）
18. 杉原俊二「うつ経験者の4テーマ分析法（3）－Rさんの大学時代」『人間科学』38, 2-7.（2011年3月）
19. 杉原俊二「うつ経験者の4テーマ分析法（4）－Rさんの入院通院治療」『人間科学』38, 8-13.（2011年3月）
20. 杉原俊二「4テーマ分析法による自分史分析（9）－学者Mの博士号取得と結婚（中篇）」『質的研究法』60, 2-7.（2011年3月）

（2）学会発表等（4件）

1. 杉原俊二「4テーマ分析法を用いた『うつ経験者』の回復期支援法－問題提起と状況把握」第34回KJ法経験交流会（川喜田研究所）2010年6月12日
2. 杉原俊二「4テーマ分析法を用いた『うつ経験者』の回復期支援法（2）」第33回KJ法学会（東京工業大学）2010年11月21日
3. 岡村翠・杉原俊二「スクールソーシャルワーク（SSW）による地域支援モデル（1）－スクールソーシャルワーカーへのインタビュー調査」第33回KJ法学会（東京工業大学）2010年11月21日
4. 杉原俊二「保健所におけるソーシャルワークの実践－子育て相談を軸として」（シンポジウム）日本人間科学研究会第5回学術大会（大阪キリスト教短期大学）2011年1月29日

○教育活動

（1）学部

「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」「子育て支援論」「面接技法」「虐待防止論」「社会福祉現場実習Ⅱ・Ⅲ」「相談援助実習指導」「福祉研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（4回生5名、3回生4名）「地域福祉活動Ⅰ・Ⅱ」（3回生4名）

（2）大学院 人間生活学研究科（修士課程）

「児童福祉論」「課題研究演習」（正指導教員1名）

○委員会活動

（1）学部

「評議員（学部選出）」「教務委員（長）」「人事委員」「研究倫理審査委員」「自己点検委員」「総務委員」「予算委員」

（2）大学院 人間生活学研究科

「入試実施委員」

○社会的活動

（1）社会活動

高知県教育委員会 スクールソーシャルワーカー活用事業スーパーバイザー

（2）学会など

日本人間科学研究会 常務理事

日本描画テスト・描画療法学会第20回大会（高松市）運営委員

所属学会などの学会誌編集協力（査読者）

○総合評価と課題

教育に関しては、赴任2年目であり、ゼミでは3年生の研究指導と4年生の卒論指導をおこなった。講義科目としては、2年生からは新カリキュラムになった。社会福祉士の受験科目である「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」のテキストの内容を、半期（30時間）では十分にカバーできないことは明白であった。そこで、上記の授業でテキストの1, 2, 3, 5章、「子育て支援論」で第4章「子ども家庭にかかわる福祉・保健」と分割して講義をおこなった（ともに前期）。受験科目でもあるので、教科書主体であったが、視聴覚教材を加えるなどの丁寧な授業を心がけた。後期の「面接技法」や「虐待防止論」では、視聴覚教材を主体として、理解を深める工夫をした。特に「虐待防止論」では、児童虐待は専門領域であったので問題なく授業ができたが、高齢者虐待は専門とはいえない領域であり、私が時間をかけて準備をした上で授業をおこなった。これは、本来担当するはずの教員が採用できなかったからであったが、私としては勉強になった。

2年生までは1学年30名定員という少人数教育であり、講義科目であっても学生に発表をしてもらうなどの細かい教育ができた。来年度からは、70名定員に合わせた授業スタイルへ変更しなければならないであろう。

研究に関しては、「うつ経験者の回復期支援法－自分史分析（4テーマ分析法）を用いた支援の効果－」が科学研究費補助金の基盤研究（C）に採用され、研究を進めることができた。研究成果を確実に公表しなければならないというプレッシャーもあるが、本年度では、研究を丁寧に取り組むことができたと考えている。研究期間はあと2年間あり、一定の成果が上がるめどもついた。次へとつながる研究にしたい。

委員会については、本年度は教務委員長の任にあたった。多くの先生方に助けていただき、何とか無難におこなうことができた。ただただ感謝である。また、法人化前の1年間限定であったが、評議員としての仕事もさせていただいた。大学全体のことを知る機会となり、発言もすることができた。大変貴重な経験であった。

社会的な活動については、地域貢献として昨年度までの「スクールソーシャルワーカー」の講演とスーパービジョンに加えて、新任者研修会を開くことができた。今後とも継続していき、できるだけ地域への貢献をしたいと考えている。また、学会誌の査読や他大学の学位論文審査といった、研究に関する後進の育成・指導といった仕事も、ここ数年増えてきている。これらの経験が、教育や研究に反映できればと考えている。

住友 雄資

Yuji SUMITOMO

○研究活動

①学術論文

西梅幸治・西内章・鈴木孝典・住友雄資（2011）「インタープロフェSSIONナルワークの特性に関する研究－関連概念との比較をとおして－」『高知女子大学紀要（社会福祉学部編）』60, 83-94.

②著書 なし

③学会等発表 なし

④その他 なし

⑤学内外資金獲得

高知女子大学学長特枠研究調査プロジェクト「健康・看護・福祉領域における教育研修・研究のイノベーションと開発に関する調査研究」主任研究者：住友雄資，150万円.

○教育活動

[学部]

- ・「福祉研究法」
- ・「精神保健福祉援助技術各論」
- ・「社会福祉援助技術演習Ⅲ」
- ・「精神保健福祉援助実習」
- ・「精神保健福祉援助演習」
- ・「福祉研究演習Ⅰ」
- ・「福祉研究演習Ⅱ」
- ・「福祉研究演習Ⅲ」（ゼミ生2名）

[大学院]人間生活学研究科（修士課程）

- ・スーパービジョン論
- ・課題研究演習（正指導教員4名，副指導教員5名）

[大学院]健康生活科学研究科（博士後期課程）

- ・精神障害者福祉論
- ・社会福祉特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（主指導教員4名，副指導教員10名）

○委員会活動

[学部]

- ・人事委員
- ・自己点検委員
- ・FD委員
- ・教務委員

[全学]

- ・人間生活学研究科長として評議会に参加した。
- ・共通教育センター（仮称）設置準備ワーキンググループを主宰した。

[大学院] 人間生活学研究科（修士課程）

- ・研究科長

[大学院] 健康生活科学研究科（博士後期課程）

- ・学務委員（社会福祉学領域）

○社会的活動

[学会・審議会・団体委員など]

- ・精神保健福祉士試験委員会 副委員長
- ・一般社団法人日本社会福祉学会 査読委員
- ・日本精神障害者リハビリテーション学会 査読委員
- ・一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会 理事兼事務局長

[講演など]

- ・高知県精神保健福祉士協会主催 講演「精神保健福祉士のこれからと養成教育のあり方」（2010年4月25日）
- ・日本精神保健福祉士協会主催 精神保健福祉士実習指導者講習会 講義「精神保健福祉援助実習指導概論」（2011年2月19日）
- ・高知県精神保健福祉士協会主催 講演「精神保健福祉士法改正について」（2011年3月19日）

○総合評価と課題

大学全体では、人間生活学研究科長として、大学評価・学位授与機構による認証評価結果に記された「人間生活学研究科定員充足率が低い」という課題への対応を行い、募集定員を減らすこと、指導体制の充実を図ることなどを人間生活学研究科としてまとめた。また共通教育センター（仮称）設置準備WGを主宰し、年度末には最終報告をおこなった。

通常 of 学部教育と大学院教育（修士課程・博士後期課程）を担った。学部全体は若手主体で活動的な教員組織になってきているが、法人化する来年度以降は学内行政・教育・研究活動の枠組みを改める必要がある。

学外業務としては、今年度も精神保健福祉士試験委員会副委員長として、試験全体にかかわる業務を担った。また一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会の理事（総務・広報・出版担当）および事務局長として事務局統括をおこなった。出版担当理事としては、精神保健福祉士新カリキュラムのテキスト刊行の責任者となり、その調整などをおこなった。来年度はこのテキストを刊行させることである。

なお研究への取り組みが少ないことが最大かつ重要な問題であり、課題でもある。

田 中 き よ む

Kiyomu TANAKA

○研究活動

(1) 著書・論文・報告書

- ・田中きよむ『少子高齢社会の社会保障論』中央法規出版、2010年11月
- ・田中きよむ・玉里恵美子・霜田博史・水谷利亮「高知県香美市にみる市町村合併の影響」『住民と自治』2010年4月号、pp.16-17
- ・田中きよむ・玉里恵美子・霜田博史・水谷利亮「限界集落における孤立高齢者への生活支援（上）」『高知論叢』第100号、pp.117-152（2011年3月）
- ・合併後の地域再生を考えるシンポジウム実行委員会編集・発行「合併後の地域再生を考える報告書」2010年7月、田中きよむ「地域再生と住民主体のまちづくり」(pp.7-16)
- ・田中きよむ・玉里恵美子・霜田博史・水谷利亮「限界集落における高齢者の生活課題と支援方向」（平成22年度科学研究費基盤研究（C）報告書、2011年3月）、第1章第1・2・3節、第2章第1・2・3節、第3章第4節）
- ・土佐経済同友会「『高知県への移住事業の拡大展開による経済活性化』その具体的提言」（2011年3月）資料編（田中きよむ集計・分析）「高知県出身・在住経験者の高知県への移住等に関する意識調査結果」pp.1-59
- ・高知県社会福祉協議会「『地域の笑顔が私の活力』高知型地域支援ワーカー研修の実施に向けて」（平成22年度高知発地域福祉実践研究会報告書、2011年3月）田中きよむ「地域支援ワーカーの理念・視点・方向」（pp.15-35）
- ・高知県社会福祉協議会60周年史作成委員会編『高知県の社会福祉の変遷』2011年3月田中きよむ「高知県における戦後社会福祉の歴史的動向と特徴」（pp.8-11）
- ・高知県社会福祉協議会「シニア世代のセカンドライフ実態調査結果」2011年3月

(2) 学会発表

- ・田中きよむ「中山間地における高齢者等の移動ニーズと移動支援—高知県大豊町の実態調査をふまえて—」社会政策学会中四国部会、2010年9月
- ・田中きよむ・水谷利亮・霜田博史「限界集落における高齢者の孤立問題と行・地域社会の支援機能—高知県大豊町・仁淀川町、長野県阿智村の調査をふまえて—」四国財政学会第50回研究会、2010年12月

○教育活動

(1) 学 部

(専 門 教 育)

1. 社会保障論
2. 福祉行財政と福祉計画
3. 社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
4. 低所得者に対する支援と生活保護制度
5. 保健医療福祉論
6. 社会保障と看護

(共 通 教 育)

1. オムニバス「土佐の健康と福祉」
2. オムニバス「福祉の世界」

(2) 大学院

(修 士 課 程)

1. 福祉行財政論
2. オムニバス「人間生活福祉政策論」
3. 課題研究演習

○委員会活動

- ・（学部）人事委員会委員、高知県立大学社会福祉研究個人情報保護・倫理審査委員会委員長、自己点検評価委員会委員
- ・（全学）入試監査委員会委員長（学部）、入試監査委員会委員長（大学院）

○社会的活動

（委員等）

- ・運営適正化委員会委員
- ・高知県社会福祉協議会 60 年史作製委員会副委員長
- ・高知市社会福祉審議会民生委員審査専門分科会会長
- ・高知市国民健康保険運営協議会委員
- ・高知市福祉有償運送運営協議会委員
- ・県内市町村地域福祉（活動）計画アドバイザー
- ・高知県介護ケア研究会会長
- ・全国障害者問題研究会高知支部長
- ・高知県社会保障推進協議会会長
- ・高知県保育運動連絡会会長
- ・「これからの特別支援教育のあり方を考える会」会長
- ・「ホームレス支援と貧困問題を考えるこうちの会」代表
- ・「高知県視覚障害者の就労を促進する会」副会長
- ・「高知の移動サービスを考える会」世話人
- ・「新時代の図書館を考える高知の会」世話人

（講演等）

- ・四万十町民生委員児童委員協議会主催講演「住民主体の地域づくりと民生委員児童委員の役割」（2010年4月）
- ・高知県介護支援専門員更新研修「人格の尊重及び権利擁護」講師（2010年6月）
- ・佐川町青少年育成町民会議主催講演「子どもの健やかな発達をめざす地域づくり」（2010年6月）
- ・中芸地域各市町村介護予防事業一般高齢者施策評価事業アドバイザー（2010年7月）
- ・香美市物部地区住民公開シンポジウム「合併後の地域再生を考える」基調講演「地域再生と住民主体のまちづくり」（2010年7月）
- ・中芸地域各市町村介護予防事業一般高齢者施策評価事業アドバイザー（2010年8月）
- ・障害者の生活と権利を守る全国連絡協議会主催講演「社会保障をめぐる情勢」（2010年8月）
- ・介護福祉士会主催シンポジウム「介護福祉士に求められるもの」助言者（2010年8月）
- ・きょうされん四国ブロック職員研修「社会保障入門」講師（2010年8月）
- ・大豊町社会福祉大会報告「大豊町移動実態調査報告」（2010年9月）

教育研究活動報告書（田中 きよむ）

- ・高次脳機能障害リハビリテーション講習会・シンポジウム(田野町・高知市・四万市)
「家族支援とネットワーク」コーディネーター（2010年10月）
- ・障害者問題を考える四国集会成人期分科会助言者（2010年10月）
- ・高知県高校障害児学級教育研究集会分科会報告「高知県における特別支援学校再編をめぐる動向と取り組み」（2010年10月）
- ・土佐町保育講演会「保育所制度のゆくえと子ども・子育て新システム」
(2010年10月)
- ・大阪保育研究所主催シンポジウム「子どもの権利保障から『子ども・子育て新システム基本制度案』を検証する」シンポジスト（2010年11月）
- ・中芸介護予防一般高齢者施策評価事業研修「コーディネーターの役割―地域を見る力を磨く―」講師（2010年11月）
- ・高知県社会福祉大会シンポジウム「孤独にしないために地域ができることを考える」
コーディネーター（2010年11月）
- ・香南市社会福祉協議会職員研修「住民主体のまちづくりと地域福祉活動計画」講師・
アドバイザー（2010年12月）
- ・放送大学出前講演会「住民参加のまちづくり」（2010年12月）
- ・ホームレス支援と貧困問題を考えるこうちの会報告「今日の貧困問題と生活支援の
方向性―大阪市西成区釜ヶ崎地区の事例―」（2011年1月）
- ・高知県社会福祉協議会主催・高知型地域支援ワーカー研修「地域支援ワーカーの理念
・視点・意識」講師（2011年1月）
- ・高岡郡保育所経営者研修会「子ども・子育て新システムについて」講師
(2011年2月)
- ・新時代の図書館を考える高知の会主催シンポジウム・シンポジスト（2011年2月）
- ・高知型住民後見のあり方を考える学習会「高知県における成年後見と権利擁護の現
状と課題」講師（2011年2月）
- ・観音寺市民生委員児童委員研修会「安心して住み続けることができる地域社会づく
りのために―地域における権利擁護―」講師（2011年2月）
- ・保育の公的保障の拡充を求める大運動高知県実行委員会主催シンポジウム「子ども・
子育て新システムを考えるシンポジウム」シンポジスト（2011年3月）
- ・土佐清水市社会福祉協議会主催研修「地域福祉(活動)計画と住民主体の地域づくり」
講師（2011年3月）
- ・ケアマネジャー定例会議（中芸広域連合）「地域の見守りや問題解決と住民参加の地
域づくり」講師（2011年3月）
- ・高知市精神障害者家族会連合会主催家族研修会「これからの地域生活づくり―親な
き後に備えて―」講師（2011年3月）

○総合評価と課題

- ・ 研究面では、社会保障制度論については、制度改革の動向をふまえ、改めて著書としてとりまとめた。科学研究費による限界集落に関する 2009～2010 年度の研究成果は、論文・報告書としてとりまとめた。高知県社会福祉協議会との地域福祉に関する 2010 年度の研究成果は、報告書としてとりまとめた。

最近数年間の高知県社会福祉協議会と共同の地域福祉研究と、3年間の科学研究費による限界集落に関する調査研究は、それぞれを総括してゆく必要があり、2011～2012年度の課題として位置づけたい。社会保障制度研究は、A. Sen の福祉理論に依拠しつつ、理論的再構築をめざしたい。

- ・ 教育面では、講義に関しては、学年が上がるにつれて、学生の学習能力が高まり、成績も上昇する傾向が見受けられる。下級学年から、そのような吸収力が身につくよう、学生の理解度を絶えず確認しながら授業を進めてゆきたい。また、社会保障制度に関する知識と理解能力、応用力を総合的に深めてゆけるような配慮が必要である。学生の知的好奇心を絶えず刺激しながら、各制度の個別理解と総合的理解の両面に配慮した授業を心がけたい。

卒論指導に関しては、4回生は地域福祉や障害福祉に関心をもっており、実態を調査して理論化してゆく力と現実問題に答えられる研究能力が身につけられるように配慮した指導を心がけたい。3回生は、じっくりと自分の問題関心を見定めようとする姿勢が見受けられる。文献研究の基本を身につけつつ、様々な地域福祉活動に関心をもって自分の問題関心を深め、卒論制作の下地づくりができるように配慮した指導を進めてゆきたい。

講義、演習を通じて、知識や技法を修得させることに自分の注意が向きがちであったが、それだけではなく、学生が自分の学問的成長が実感できるような積極的指導を心がけてゆきたい。

- ・ 社会的活動は、充実していたと言える。他機関・団体との共同研究や様々な地域の調査研究等を通じて、制度研究や地域福祉研究を深めるために多くのことを学ばせていただいた。地域のニーズや生活問題の多様化に対応すべく、地域と連携した調査研究活動を一層充実させてゆきたい。

林 美 朗

Yoshiro HAYASHI

○研究活動

学会活動 下記第 57 回日本病跡学会総会理事会出席（2010. 4. 23、佐久）

学会発表： ・土佐の奇人・中江兆民（第 57 回日本病跡学会総会、2010. 4. 24、佐久）

・日本文学と狂気あるいは精神病理学

（平成22年度夏季全国大学国語国文学会、2010. 6. 6、同志社女子大学）

・ドーパミン系の生物学と精神病理学・承前（第20回日本臨床精神神経薬理学会、2010. 9. 16、仙台）

・Buddhism Temples in Japan and Psycho-social Welfare（第20回世界社会精神医学会議、2010. 10. 25、マラケシュ（モロッコ））

・夢（幻覚）の凶像史（第 14 回精神医学史学会、2010. 10. 30、宇都宮）

発表論文： ・書評「高橋正雄「漱石文学が物語るもの—神経衰弱者への畏敬と癒し」」（日本病跡学雑誌第 79 号、117-118、2010. 6. 25）

○講 演

・学内健康教育講座講演（2010. 11. 11/18）

知っておきたいメンタルヘルス—社会人になるにあたって—

・室蘭医師会学術講演会（2010. 11. 25）

精神医学温故知新— 2 国際学会等展望—

・室蘭工業大学大学院講演（2010. 11. 26）

知っておきたいメンタルヘルス—社会人になるにあたって—

○教育活動

担当科目：精神医学、精神保健学、人体の構造と機能及び疾病、保健医療サービス

福祉研究演習、地域福祉活動 他

「地域福祉活動」：見学旅行引率

①（2010. 6. 19, 20）大阪応徳院、近江八幡ボーダーレス美術館、京都法然院

②（2010. 7. 24）松山石手寺

③（2010. 8. 21）松本神宮寺

④（2010. 12. 20）高知・土佐病院デイケア

○委員会活動

人権委員会委員長

健康管理センター運営委員

○社会的活動

学外地域貢献：細木ユニティ病院非常勤医師

東海学院大学（岐阜）国語入試問題出題委員

金城学院大学・北海道ハイテクノロジー専門学校非常勤（集中講義）

講師

四万十市渡川病院非常勤医師（2011年5月～）

在家僧侶活動 岐阜高岡家三年忌法要（2010.5.29）

NPO法人八正会依頼 八王子福島家葬儀（2010.12.12）導師

○総合評価及び今後の課題

赴任2年目にしては、新しい環境でかなり研究活動ができたように思われる。しかし高血圧で体調が悪く、その不調を押して参加した学会発表や遠くモロッコまで遠征して発表した国際会議の成果が今のところまだ活字として残せていない（一部は同人誌その他に発表）のは残念としか言う他ない。また6月頃の大阪応徳院、近江八幡ボーダーレス美術館、京都法然院への見学旅行の引率も結構大変だった。平成23年度は、担当授業科目も増えるし、新しい役職も任される。非常勤医師勤務先の病院も変わる。在家僧侶活動も数が増えるだろう。健康には十分留意し精進して、研究活動中心に（科研費取得は絶対の天命）猶頑張りたい！

○研究活動

○教育活動

講 義

1 「コンピュータリテラシー」（共通教育情報科目）

永国寺キャンパスの第1情報演習室ならびに池キャンパスの本部・健康栄養学部棟に新設された情報演習室において、前期に4学部の新入生を対象とした9クラス(文化学部4、看護学部2、社会福祉学部2、健康栄養学部1)を担当し、大学での学びにパソコンを活用できるように、ワープロソフト Word、表計算ソフト Excel、プレゼンテーションソフト PowerPoint の基本的な操作を中心に実習形式で授業を行った。情報演習室のハードとソフトが更新され、Word・Excel・PowerPoint もようやく 2002 から 2007 にバージョンアップされたので、授業で用いるテキストや配布するプリント教材の内容を 2007 用に更新した。

2 「社会福祉特別演習 I」（社会福祉学部専門科目）

前期の「コンピュータリテラシー」の続編として、Word、Excel、PowerPoint の操作のステップアップ、特に PowerPoint を用いたプレゼンテーションに力点をおいて実習形式の授業を後期に行った。

3 「特別講義 V (データ解析論)」（大学院人間生活学研究科共通科目）

生活科学部谷本教授と分担して担当し、主として Excel の統計関数を用いた相関分析・回帰分析やピボットテーブルによるクロス集計に関する実習形式の集中授業を行った。

○委員会活動

1 運営会議、評議会

社会福祉学部長として大学運営に参画。2011年4月の法人化に向けて、前年度に引き続き、法人化移行準備委員会の委員と第2作業専門部会の部会長を務め、第2作業専門部会では法人化後の人事・給与・労務関係を検討した。

2 社会福祉学部教授会

議長として教授会を開催し、大学運営会議や評議会の審議内容や決定事項を報告すると共に、大学の方針に則って社会福祉学部の運営を司った。

3 学部人事委員会

人事委員長として、学部拡充に伴う2011年度採用の教員増分9名の公募を実施し、候補者を決定して、採用手続きを進めたが、2名については適任者を見いだせなかった。

4 全学入試委員会、学部入試委員会

社会福祉学部の入試実施委員を統括し、新たに全国卒の推薦入試を導入した。また初めて男子も受験する2011年度の入学試験の円滑な実施に努めた。また、県内外で開催された進学相談会に出席して、社会福祉学部のPRと志願者の確保に努めた。

○社会活動

- 1 身体障害者施設アドレス・高知 苦情解決第三者委員

○総合評価と課題

社会福祉学部長の職務と担当授業が中心で、2002年度に学部長就任して以来、研究活動は休眠状態である。

社会福祉学部の2010年度は、介護福祉士養成課程の設置と入学定員の70名への増員を実施し、「西日本で唯一の3福祉士に対応した公立大学社会福祉学部」としてのスタートの年となった。学生数はこれから毎年増えて、3年後には4学年全てが入学定員70名の学生となるので、教員数についても計画的に増員を図るとともに、30名入学定員時代に培われた少人数教育を活かした70名入学定員に対応した実習などの教育指導体制を整えていくことが必要である。

教育活動においては、「コンピュータリテラシー」、「社会福祉特別演習Ⅰ」、「特別講義Ⅴ（データ解析論）」の授業で使用している情報演習室のハードとソフトの更新に合わせて授業内容も更新した初年度であり、試行錯誤の面もあったので、授業内容を洗練・改善して行きたいと考えている。

宮上 多加子

Takako MIYAUE

○研究活動

1. 論文

宮上多加子(2011)「高齢者福祉施設に勤務する社会福祉系大学卒介護職員のキャリア意識」高知女子大学紀要社会福祉学部編, 第60巻, 43-52.

2. 学会発表

宮上多加子: 高齢者福祉施設に勤務する社会福祉系大学卒業生の職務意識, 第18回日本介護福祉学会大会(岡山), 2010年9月.

石川由美・宮上多加子・黒田しづえほか: KOMI ビギナーズ研修から記録システム導入までの課題, ナイチンゲール KOMI ケア学会第1回学術集会(東京), 2010年11月.

○教育活動

講義の概要

[学部]

1. 「高齢者に対する支援と介護保険制度」

社会福祉学部教員2名および看護学部教員1名でオムニバスにて担当した。また、1回生後期から2回生前期にかけての科目であることから、講義の進め方および他の科目との関係について留意した。

2. 「福祉研究演習Ⅰ・Ⅱ」

本年度の受講者は3名である。研究活動に関する基礎的な力を身に付けることができることを目標とした継続的な指導を行った。

3. 「福祉研究演習Ⅲ」

本年度の受講者は3名であり、卒業研究論文の指導を行った。なお、福祉研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの内容と成果については、ゼミ記録として冊子にまとめた。

4. 「地域福祉活動Ⅰ・Ⅱ」

ゼミ生を中心とした少人数の受講者であったが、学外の病院・施設の見学や学会への参加等を通して、実践的な内容について理解を深める工夫をした。

5. 「保育学（実習および家庭看護を含む）」

生活科学部にて開講されている科目であり、オムニバスで担当した。

[大学院（人間生活学研究科）]

1. 「介護福祉学」

介護福祉に関係した理論や研究論文の紹介、介護・看護現場における新しい取り組み等を通して、介護福祉学が果たす役割と課題に関する検討を行った。

2. 論文指導

正指導教員としてM1生1名, M2生2名, 副指導教員としてM2生以上1名を担当した。

大学院(M) 研究員は7名を受け入れた。修士論文作成に関するディスカッションの場として、院生だけでなく大学院研究員の参加も募り、大学院ゼミを定期的で開催した。

[大学院（健康生活科学研究科）]

副指導教員として、院生6名を担当した。

○委員会活動

[全 学]

地域創成センター長
広報委員長

[学 部]

1. 学部人事委員会／自己点検評価委員会
2. 学部倫理審査委員会
3. 学部教務委員会／FD委員会

[大学院（健康生活科学研究科）]

入試委員

○社会的活動

1. 高知市民生委員推薦会委員
2. 日本地域福祉学会地方部会委員
3. 高知県福祉基金理事
4. 高知県医療審議会委員
5. 高知県介護・福祉分野雇用検討委員会委員

○公開講座等

高知県社会福祉協議会介護福祉士国家試験準備講座講師（10月）

○総合評価と今後の課題

大学全体としては、法人化と共学化への移行に伴う作業が集中した1年でした。4月から地域創成センター長および広報委員長という役職を拝受し、大学全体の地域貢献や広報について活動することが多くなり視野が広がったと思います。また、大学としての地域貢献の重要性や、そのために学外との連携や情報交換が不可欠であることから、大学広報室のような専属の事務組織の必要性を痛感しました。

学部では、平成22年度より介護福祉コースでの教育がスタートし、17名の学生がこのコースに所属することになりました。学生たちは、生来のものと思われる明るいキャラクターに加えて、介護福祉コースの1期生という自覚を持ってくれて、ポスター制作、介護の日の学外イベント、四大学県民講座、介護福祉コース紹介DVD制作など、様々な面で活躍してくれました。この影響もあったせいか、介護福祉コース2期生（平成23年度入学生）は、24名（男子学生4名含む）となり、定員充足率は80%となりました。平成23年度からは、介護実習もスタートし、専門科目も多くなりますので、介護福祉コース教員で業務を分担し、質の高いきめ細かな教育が可能となるよう検討していきたいと思います。

研究面においては、大学内外の参加者を募って、毎月定期的に「Kゼミ」を開催しました。昨年に引き続き、ゼミで調査した内容を、11月のナイチンゲールKOMIケア学会で発表しました。このような活動は、大学と医療・福祉分野の人材をつなぐ場として、多職種の方々が交流できる機会になっています。平成23年度以降は、学部の介護福祉教育の中にもKOMI理論が入ってきますので、学生の教育と現場のケアをつなぐような活動ができればと思います。

また、私自身のもう一つの研究テーマに加わった「離職者に対する介護福祉教育」については、介護福祉系専門学校の先生方にご協力をいただき、14人の社会人学生に対して面接調査を実施しました。平成23年度は、調査データのまとめと、今後の研究の方向性について検討したいと思います。

黒田 しづえ

Shidue KURODA

○研究活動

(1) 論文
なし

(2) 学会発表

石川由美・宮上多加子・黒田しづえ・ほか：KOMI ビギナーズ研修から記録システム導入までの課題，ナイチンゲール KOMI ケア学会 第1回学術集会（東京）

2010年11月

○教育活動

学部担当科目

1. 「こころとからだのしくみ I」
2. 「発達と老化の理解 I」
3. 「介護総合演習 I」
4. 「生活支援技術 III」
5. 「介護技術」
6. 「福祉の世界」（オムニバス）
7. 「介護等体験 事前指導」（オムニバス）

○委員会活動

1. 総合情報委員
2. 紀要委員

○社会活動

1. 委員等
・社会福祉法人鶯園 特別養護老人ホーム ロングステージ KOBE 大石 運営推進
会議構成委員 2009年6月～

○公開講座等

1. 高知女子大学「高校生のための公開講座③」「2070年の私—介護用品・福祉機器の使用法と実際」2010年7月
2. 財団法人鉄道厚済会社会福祉部 第47回社会福祉セミナー「共生社会への道筋」—社会福祉からの提言— 参加 2010年7月
3. 高知女子大学社会福祉学部「オープンキャンパス体験授業②」「介護用品・福祉機器の展示・説明」2010年8月
4. 高知女子大学 IPE プロジェクト事業「千葉大学における専門職連携教育（IPE）の取り組み」 参加 2010年8月
5. 高知女子大学社会福祉学部「リカレント教育講座」「日本社会の変化と『介護』」講師 2010年10月
6. 医療法人恕泉会 リハビリテーション病院 すこやかな杜「KOMI 理論・KOMI 記録システム事例検討」講師 2010年9月、11月、12月

○その他

- ・こうち 2010 介護わくわくイベント（高知中央公園）「プチリラクゼーション」
2010 年 11 月
- ・四大学県民講座「自分らしく生きる」（高知女子大学永国寺キャンパス）ふれあい体験コーナー「手浴」
2010 年 12 月

○総合評価と今後の課題

今年度から開始となった介護福祉コースの授業を主に担当しました。定員 30 名のところ 17 名と少なめの学生数ではありますが、チームワークの良さと元気の良さ、明るさにパワーを貰った初年度でした。

介護総合演習（学内介護実習）時には学生の自己評価表を作成し、気づきや課題を明確にするように取り組んできました。これらの学習、実習の成果や課題については、2011 年 4 月からスタートした「介護福祉実習Ⅰ」終了後に検討し、新たな取り組みへと発展させたいと考えています。2011 年からは KOMI 理論を介護過程に導入し学内学習を進めますが、その後の介護現場実習（介護福祉実習Ⅱ－①）においても同理論に基づく介護過程の展開を行います。そのための効果的な教材の提供が課題であると捉えています。

2011 年度については、14 期生の学年担当としてのスタートを切ることになりましたので、男女 76 名の学生生活が、楽しく充実したものになるよう尽力したいと思っています。また、介護福祉コースの学生も男子学生 4 名、女子学生 20 名の 24 名となり（定員の 80.0%）前年度とは違った構成、人員でのスタートとなりました。先輩の存在がある学年ができたということも影響すると思います。どのようにすれば、一層の充実が図れるのかが課題でもあります。

後藤 由美子

Yumiko GOTO

○研究活動

(1) 論文

後藤由美子（2010）「外国人介護士受け入れに関する一考察ーインドネシア人介護福祉士候補者受け入れ調査を通してー」高知女子大学紀要社会福祉学部編, 第 60 号,53-64

(2) 著書

佐瀬美恵子, 後藤由美子, 山内恵美, 上村聡子, 兼田美代（2010）「カンファレンス記録に見る「任せる」と言う家族へのスタッフのかかわり」『認知症介護』季刊誌, 日総研,42-50

(3) 学会発表

1. 後藤由美子, 中井久子「在日フィリピン人介護士の実態調査」日本地域福祉学会第 24 回大会（新潟）, 2010 年 6 月
2. 後藤由美子「インドネシア人介護福祉士候補者の意識と外国人介護士受け入れ施設の課題」自主企画シンポジウム『EPAによるアジアからの介護福祉士候補者の受け入れについて』日本介護福祉学会第 18 回大会（岡山）, 2010 年 9 月
3. 後藤由美子, 中井久子「在日フィリピン人介護士の現状と課題ー在日フィリピン人介護者調査からー」日本社会福祉学会第 58 回全国大会（名古屋）, 2010 年 10 月
4. 佐瀬美恵子, 臼井キミカ, 後藤由美子, 上西洋子, 佐々木八千代, 高島昌子「フィンランドの認知症高齢者ケアからの学びー早期支援から攻撃的な認知症高齢者ケアの試みまでー」第 11 回日本認知症ケア学会大会（神戸）, 2010 年 10 月

(4) 研究資金の導入

文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（C））「生活支援職における異文化コミュニケーション教育研修プログラムの開発」（研究代表者 後藤由美子）（平成 21 年～23 年度）

○教育活動

(1) 担当科目

- ・「介護の基本Ⅰ」
- ・「介護の基本Ⅱ」
- ・「生活支援技術Ⅰ」
- ・「介護総合演習Ⅰ」
- ・「福祉研究演習Ⅰ」
- ・「福祉研究演習Ⅱ」
- ・「福祉の世界」（オムニバス）
- ・「社会福祉特別演習Ⅲ」

* 「社会福祉特別演習Ⅲ」では、介護現場の専門職、家族介護者、また介護を受けている当事者をゲストスピーカーとして招いた。

(2) 介護福祉実習に関する業務

次年度「介護福祉実習」に向けた実習先の確保・調整及び学生配置等の準備
専門学校（介護福祉士養成）との調整

○委員会活動

全学：国際交流委員、健康長寿センター運営委員

学部：実習委員、入試実施委員、学生委員、2 回生学年担当

○社会的活動

- ・ 社会福祉学部「高校生のための公開講座」、「オープンキャンパス」介護体験
- ・ 健康長寿体験型セミナー「認知症とその理解 - 安心して暮らせるために-」企画・実施
展示ブース「私の老後の生き方暮らし方ノート」を利用（仁淀川町公民館、高知女子
大学永国寺キャンパス）
- ・ こうち介護の日 2010 出展（企画・実施）
- ・ 高知県 4 大学県民講座
- ・ 介護職員基礎研修講師
- ・ 第 11 回日本認知症ケア学会実行委員
- ・ 第 23 回介護福祉士国家試験実地試験委員

○総合評価及び今後の課題

(1)教育活動

昨年度末に介護福祉士養成学校の認可を受け、本年度から介護コース第 1 期生の養成が始まりました。学生数が少数なこともあり双方向の授業ができたと思っています。今後も資料やパワーポイント等に創意工夫をしていきたいと思っています。また、演習科目で使用する物品等の充実を図る必要性を感じています。

今年度は学年担当として個別支援が十分ではなかったように感じられるため、次年度は面談等を実施していきたいと思っています。

(2)研究活動

予定していた科研調査については、日程調整が合わず情報収集に課題が残りました。次年度は、整理をしてまとめの作業と今後の方向性を検討していきたいと思っています。

(3)その他

介護福祉実習等で県内の福祉施設や介護サービス事業所、関係機関との連携が必要となってきます。今年度は介護職員研修の講師を務める機会を得ましたが、今後地域活動にも積極的に関わり、地域に貢献できるよう努力していきたいと思っています。

長澤 紀美子

Kimiko NAGASAWA

○研究活動

（1）報 告（3件）

- ・ 長澤紀美子 (2010) 「高齢者ケアのアウトカム評価－イギリスにおける政策動向と社会的ケアのアウトカム指標（ASCOT）の事例－」『高知女子大学紀要（社会福祉学部編）』60, p.169-183.
- ・ 長澤紀美子・新藤こずえ (2011) 「国際ソーシャルワーク教育の開発について」(『高知女子大学学長裁量経費特別調査研究プロジェクト報告書』「健康・看護・福祉領域における教育研修・研究のイノベーションと開発に関する調査研究」(主任研究者：住友雄資), p.27-55.
- ・ 冷水豊・長澤紀美子 (2011) 「イギリス福祉サービスにおけるベンチマーキング型評価－自治体評価および事業者評価の取り組み－」厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）(H22-長寿-指定-008) (主任研究者：近藤克則・日本福祉大学教授) 「介護保険の総合的政策評価ベンチマーキングシステムの開発」分担研究報告書

（2）学内外の競争的資金の獲得状況（5件）

- ・ 高知女子大学学長裁量経費特別調査研究プロジェクト「健康・看護・福祉領域における教育研修・研究のイノベーションと開発に関する調査研究」(主任研究者：住友雄資)の一部「国際ソーシャルワーク教育の開発について」(長澤紀美子・新藤こずえ) (平成20～22年度)
- ・ 文部科学省科学研究費補助金（基盤研究B一般）「利用者本位の介護サービスの提供に関する実証研究」(主任研究者：小山秀夫・兵庫県立大学教授) (平成21～24年度)における分担研究者
- ・ 厚生労働科学研究費補助金（政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業））(H22-政策-一般-020)「柔軟性・持続性のある新しい地域ケア支援の仕組みとその人材開発に関する実証・実践研究」(主任研究者：冷水豊・日本福祉大学教授) (平成22～24年度)における分担研究者
- ・ 厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）(H22-長寿-指定-008) 「介護保険の総合的政策評価ベンチマークシステムの開発」(主任研究者：近藤克則・日本福祉大学教授) (平成22～24年度)における協力研究者
- ・ 関東学院大学・戦略的プロジェクト研究「ポストモダンのもとでの新たな公共による地域政策に関する研究」(主任研究者：大住莊四郎・関東学院大学教授) (平成22～24年度)における分担研究者

○教育活動

（1）学 部

- ・ 「現代社会と福祉」「国際福祉論Ⅰ」「国際福祉論Ⅱ」「女性福祉論」「社会福祉外書講読Ⅰ」「社会福祉外書講読Ⅱ」「相談援助実習指導」「社会福祉現場実習Ⅱ・Ⅲ」
- ・ オムニバス：「女性の生活と健康」「土佐の生活と健康」「福祉の世界」
- ・ 「福祉研究演習Ⅰ」「福祉研究演習Ⅱ」受講者4名、「福祉研究演習Ⅲ」受講者5名

（2）大学院人間生活学研究科

- ・ 「国際福祉政策論」／「人間生活福祉政策論」（オムニバス）
- ・ 副指導教員としてM1生－1名 M2生－3名 M3生－1名を担当。

○委員会活動

【全学】全学国際交流委員長

【学部】学部総務委員長・予算委員長

【大学院】大学院人間生活学研究科学位審査委員長・大学院選出国際交流委員

○社会的活動

（1）委員等

- ・ 高知県佐川町公文書開示審査会委員、高知県佐川町個人情報保護審査員
- ・ 財団法人こうち男女共同参画社会づくり財団運営委員会委員、ソーレえいど事業・県民からの企画提案事業選考委員（平成22年12月迄）

（2）公開講座等

- ・ 「イギリス福祉領域における行政評価－展開と課題」
（介護保険の総合的政策評価ベンチマーキングシステムの開発・研究班会議での報告）
平成22年8月18日（京都大学東京オフィス）
- ・ 「イギリスのコミュニティケア改革（高齢者介護）」吉備国際大学国際講演会
平成22年9月3日（金）（吉備国際大学6号館）
- ・ 「イギリス福祉サービスの事業者評価－展開と課題－」
（介護保険の総合的政策評価ベンチマーキングシステムの開発・研究班会議での報告）
平成22年9月21日（日本福祉大学名古屋キャンパス7F）
- ・ 「イギリス福祉領域における行政評価－展望と課題」
（関東学院大学「ポストモダンのもとでの新たな公共による地域政策に関する研究・講演会」平成22年12月18日（土） 関東学院大学関内メディアセンター

○総合評価と今後の課題

（1）教育活動について

現実の福祉課題を体験的に理解する機会を積極的に設けた。例えば、「女性福祉論」において、県内の主要な女性相談機関への訪問と支援者から直接学習する機会（H22年度は、高知県女性相談支援センター、こうち男女共同参画センター「ソーレ」、母子自立就業支援センター、DV被害者民間シェルター、高知県母子自立支援員等）により、学生が困難を抱える女性の現状や制度の課題について学び、必要な支援について考察する力を身につけるように努めた。また新藤先生と共に担当し、学長特枠研究と連動した「国際福祉論Ⅱ」において、受講生の4回生が主体的に企画・実施・評価を行った「国際ソーシャルワーク演習」（開発教育ワークショップ）は出色の出来映えであった（詳細は学長特枠報告書に記載）。

（２）研究活動について

イギリスにおける福祉や医療の現状と課題について報告する機会が増えた。up-to-dateな情報の収集とともに、日本の政策課題からみた比較分析を行うことが今後の課題である。また学内外で共同研究の場が増え、共同研究者と積極的に意見交換しつつ、研究の精度を高めるプロセスが重要であると感じている。

（３）学内業務について

今年度から、全学国際交流委員長を務めることになり、学部での業務以外に、全学的な留学生支援や協定校との留学の速やかな実施のための業務が加わった。本学の国際交流は文化学部が主体ではあるものの、文化学部以外の教員が委員長を務めることにより、国際交流を全学的な取り組みとして進める一助になればと考えている。23年2月には学部選出委員の後藤先生のご協力により、エルムズ大学短期留学生に社会福祉学部から初めて4名も参加した。しかしこの間担当事務職員が二度交替し、熟練した職員による事務局体制の強化が課題である。

西 内 章

Akira NISHIUCHI

○研究活動

・論文

1. 西梅幸治・西内章・鈴木孝典・住友雄資（2011）「インタープロフェッショナルワークの特性に関する研究」高知女子大学紀要社会福祉学部編，Vol.60，83-94.
2. 西梅幸治・西内章・新藤こずえ（2011）「初任スクールソーシャルワーカーの実践特性と課題」高知女子大学紀要社会福祉学部編，Vol.60，95-108.

・報告書

1. 鈴木孝典・西梅幸治・西内章・國重智宏（2010）「高知県における保健・医療・福祉専門職のための学際的教育モデル開発についてー平成 22 年度学長特別枠研究・事業助成報告 健康・看護・福祉領域における教育研修・研究のイノベーションと開発に関する調査研究（主任研究者 住友雄資）ー」『学長裁量経費特別調査研究プロジェクト報告書健康長寿と人間尊厳のまちづくり“高知”2010』高知女子大学,57-75.
2. 宮武陽子・西内章・山中福子・廣内智子（2010）「平成 22 年度高知女子大学 IPE プロジェクト委員会活動報告書ー平成 22 年度学長特別枠研究・事業助成報告ー」『学長裁量経費特別調査研究プロジェクト報告書健康長寿と人間尊厳のまちづくり“高知”2010』高知女子大学,127-165.

・学会報告

1. 西内章（2010）「保健・医療・福祉専門職の連携・協働におけるソーシャルワーク視座の検討ー過疎地域における利用者システムの認識に着目してー」日本社会福祉学会第 58 回大会（日本福祉大学、10 月 9・10 日）.
※科学研究費補助金・若手研究 B による研究.

・研究会

1. ソーシャルワークの研究会である「エコシステム研究会（研究代表 関西福祉科学大学大学院 太田義弘教授）に所属し、コンピュータアセスメント支援ツールの研究開発を行った。
2. コンピュータアセスメント支援ツール「チームアセスメント支援ツール」（共同研究者 桃山学院大学 丸山裕子教授、広島国際大学 山口真里講師）との研究開発を行った。
3. 独立型社会福祉士事務所の専門性について、同朋大学 小柴住まゆ子講師を研究代表として調査研究を行った。

○教育活動

[共通教育科目]

- ①「土佐の健康と福祉」

[学 部]

- ①「相談援助の基盤と専門職」
- ②「相談援助の理論と方法」
- ③「高齢者に対する支援と介護保険制度」
- ④「高齢者福祉論Ⅰ」
- ⑤「高齢者福祉論Ⅱ」
- ⑥「相談援助演習」
- ⑦「社会福祉ふれあい実習」
- ⑥「相談援助実習指導」
- ⑦「社会福祉現場実習Ⅱ」
- ⑧「社会福祉現場実習Ⅲ」
- ⑨「福祉研究演習Ⅰ」
- ⑩「福祉研究演習Ⅱ」
- ⑪「福祉研究演習Ⅲ」

[大学院人間生活学研究科]

- ①ソーシャルワーク論
- ②人間生活論演習Ⅱ

○委員会活動

- ①学部実習委員長
- ②高知女子大学社会福祉研究倫理専門審査委員
- ③大学院人間生活学研究科広報委員

○社会的活動

[学外での活動]

- ・高知県社会福祉協議会生きがい健康づくり推進協議会委員
- ・高知県教育委員会スクールソーシャルワーカー活用事業スーパーバイザー
- ・社会福祉法人コーギー南国知的障害者通所授産施設なんこく第三者委員

[研修会講師・講演]

- ・2010年度高知県児童福祉司認定講習会講師「社会福祉援助技術論」担当
- ・2009年度四万十市教育相談研究会講師（6月7日、8月18日、10月6日、12月10日
四万十市中村小学校ほか）

○総合評価と課題

今年度も、教育活動、学内業務、研究活動の-effortに留意することとなった。社会福祉士養成の新カリキュラムと旧カリキュラムを並行して実施している。新カリキュラムでは、複数の教員が同じ科目を担当することが多くなることから、授業内容と担当教員の調整を行い、スムーズな演習・実習教育体制を構築しなければならない。

また、研究活動においては、2010年度より科学研究費補助金・若手研究Bによる研究に採用されたこともあり、自らの研究活動に新たな観点も取り入れてまとめていきたいと考えている。2010年度は、文献研究や学会報告等そのための基礎研究を行った年度であった。2011年度はさらに研究を継続していきたいと考えている。

上 白 木 悦 子

Etsuko KAMISHIRAKI

○研究活動

1. 原 著

- 1) Kamishiraki E., Maeda S., Jay S., Ikeda N. （査読あり）
Attitudes toward Autopsy in Unexpected Death: A Nation-wide Survey of Physicians and Risk Managers in Japanese Teaching Hospitals. *Medicine, Science and the Law* 50(2): 60-66, 2010.
- 2) Maeda S., Kamishiraki E., Jay S., Ikeda N. （査読あり）
Attitudes regarding reporting healthcare-associated patient deaths to the police: A nationwide survey of physicians and risk managers in Japanese teaching hospitals. *Legal Medicine* 12(6): 296-299, 2010.

2. 著 書

- 1) 上白木悦子, 前田正一. 第3部 専門職連携と医療ソーシャルワーカーの役割 第10章 医療福祉専門職に期待される役割と実践での課題「患者の権利とインフォームド・コンセント」佐藤・竹内・村上編：新/医療福祉学概論. 川島書店, 131-139, 2010.
- 2) 上白木悦子. 第2章 保健医療サービスの担い手を理解する「各医療専門職の役割」村上・横山編：社会福祉士養成 新カリキュラム・テキスト 保健医療サービス. 久美出版, 16-22, 2010.

3. 総 説

- 1) 上白木悦子、前田正一、臼元洋介、辻彰子、池田典昭.
診療関連死を対象とする剖検についての意識と行動に関する研究－臨床研修病院の教育研修責任医師・医療安全管理者を対象とした意識・行動についての基礎的研究（第1報）. *医事新報* 4534, 2011.
- 2) 上白木悦子、前田正一、臼元洋介、辻彰子、池田典昭.
診療関連死を対象とする剖検についての意識と行動に関する研究－臨床研修病院の教育研修責任医師・医療安全管理者を対象とした意識・行動についての基礎的研究（第2報）. *医事新報* 4535, 2011.

4. 報告書

- 1) 平成21年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「診療関連死における剖検に関する実態および意識調査」（H21－医療－一般－009）

5. 学会発表

- 1) 上白木悦子、前田正一、臼元洋介、辻彰子、池田典昭.
診療関連死における剖検－研修責任医師等の剖検に対する意識と遺族への剖検の提案に対する態度について. 第94次日本法医学会学術全国集会, 2010（東京都）.

6. 競争的資金等の獲得状況

- 1) 平成22年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「診療関連死における剖検に関する実態および意識調査」（主任研究者：池田典昭・九州大学大学院医学研究院教授）における研究協力者
- 2) 日本医師会総合政策研究機構「医師法 21 条と診療関連死の警察届出 - 日本医師会会員を対象とする意識と行動に関する調査研究 -」（主任研究者：前田正一・慶應義塾大学大学院准教授）における共同研究者
- 3) 日本医師会総合政策研究機構「採血時に生じた有害事象への対応に関する実態調査」（主任研究者：前田正一・慶應義塾大学大学院准教授）における共同研究者

○教育活動

1. 学 部

- | | | |
|-------------|--------------|---------------|
| ・医療福祉論 | ・医療ソーシャルワーク論 | ・ケアマネジメント論 |
| ・ケアマネジメント演習 | ・社会福祉入門演習 | ・社会福祉基礎演習 |
| ・社会福祉ふれあい実習 | ・社会福祉現場実習Ⅱ | ・社会福祉現場実習Ⅲ |
| ・相談援助演習 | ・相談援助実習指導 | ・福祉の世界（オムニバス） |
| ・福祉研究演習Ⅰ | ・福祉研究演習Ⅱ | ・福祉研究演習Ⅲ |

2. 大学院 担当科目なし

○委員会活動

1. 全 学

- 1) 健康長寿センター運営委員
- 2) 入試実施委員

2. 学 部

- 1) 実習委員
- 2) 研究個人情報保護・倫理審査委員
- 3) 学生委員（第13期生学年担当）

○社会的活動

1. 高知県社会福祉士会理事

- 1) 社会福祉士国家試験全国統一模擬試験担当（日程：2010年10月31日，会場：高知女子大学）
- 2) 高知県社会福祉士会 Step up 研修「社会福祉士に求められる実践研究の視点と方法を学ぶ」における講師（日程：2011年1月29日，会場：高知女子大学）

○総合評価及び今後の課題

1. 研究活動

- 1) 本年度の研究活動として、共同研究者とともに、診療関連死における患者・遺族や医療従事者の実態調査を原著としてまとめた。これらの論文は、競争的資金による業績であり、本年度において一定程度の成果を出すことができた。したがって、今後は、終末期医療における患者の自己決定と医療ソーシャルワーカーに関する基礎研究につき、原著を作成する予定である。
- 2) 社会福祉士養成のための新カリキュラムに対応したテキスト(2冊)の作成に加わった。

2. 教育活動

- 1) 各講義においては、TBLの手法を用いる等し、学生が自ら考え、学習する機会を設定した。その中で、学生からは授業速度が速いとの評価があった。次年度以降は、学生の習得状況を勘案しながら授業を進めることとしたい。
- 2) 本年度より、第13期生(75名)の学年担当を三好弥生先生と担当することとなった。本年度は、学生の個別面談を複数回実施するなどして、学生の現状把握に努めた。

3. 社会的活動

- 1) 前年度の課題として、地域の関連機関等との連携を挙げていた。本年度は、このことに意識的に取り組み、特に、高知医療センターとの共同事業を継続して複数回開催できた。また、少数ではあるが、地域の医療機関の医療ソーシャルワーカーとの関係も構築することができた。
- 2) 本年度は、高知県社会福祉士会理事を担当した。

鈴木 孝典

Takanori SUZUKI

○研究活動

（１）学術論文

鈴木孝典『精神障害者グループホームにおける支援評価ツールの開発的研究（課程博士論文、提出先：大正大学大学院）』2011. 3.

西梅幸治、西内章、鈴木孝典、住友雄資「インタープロフェSSIONALの特性に関する研究－関連概念との比較を通して」『高知女子大学紀要』Vol. 60、2011. 3、pp.83-94.

（２）著 書

なし

（３）競争的資金の獲得

科学研究費補助金（若手(B)、課題番号:22730440、平成22年度～24年度）

研究代表者：鈴木孝典

研究課題名：「精神障害者グループホームにおける支援評価モデルの開発的研究」
平成22年度学長特枠研究

研究代表者：住友雄資

研究課題名：「健康・看護・福祉領域における教育研修・研究のイノベーションと開発に関する調査研究」

○教育活動

（１）講 義

[学 部]

1. 「精神保健福祉論」
2. 「社会調査の基礎」
3. 「精神保健福祉援助実習」
4. 「精神保健福祉ふれあい実習」
5. 「福祉研究演習Ⅰ」
6. 「福祉研究演習Ⅱ」
7. 「福祉研究演習Ⅲ」
8. 「社会福祉特別演習Ⅳ」

[大学院]

1. 「障害者福祉論」
2. 「人間生活論演習Ⅱ」

（２）講義以外

1. 実習支援

配属実習に備えての実習の動機、課題の深化及び実習計画の作成のための個別指導を実施した。

2. 国家試験受験者への学習支援

精神保健福祉士国家試験受験者に対して、「精神保健福祉論」、「精神保健」、「精神医学」の3教科にかかわる受験対策講座を開講した。

○委員会活動等

（1）学 部

1. 実習委員
2. 情報処理委員
3. 入試実施委員

（2）全 学

1. 総合情報センター情報処理部会員
2. 入試実施委員（センター試験部会委員）

○社会的活動

（1）委員等

1. 高知県精神保健福祉士協会 運営委員（2008年4月～）
2. 高知県精神医療審査会 委員（2008年4月～）
3. 一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会 広報委員
4. 高知県自立支援協議会 委員（2009年2月～）
5. 高知県障害者施策推進協議会 委員（2009年4月～）
6. 高知市自立支援協議会 運営会議メンバー（2009年4月～）
7. 社会福祉法人土佐あけぼの会 評議員及び第三者委員（2010年4月～）
8. 高知県障害者介護給付等不服審査会 委員（2010年4月～）
9. 高知市障害者計画等推進協議会 副委員長（2010年4月～）
10. 高知市点字図書館基本構想検討会 委員（2010年11月～2011年3月）
11. 高知県点字図書館基本構想検討会 委員（2010年11月～2011年3月）

（2）講演等

1. 高知県精神保健福祉士協会新人研修会 コーディネーター（7月10日、11日）
2. 高知県介護福祉士会 介護福祉士国家試験準備講座 講師（9月9日）
3. 社会福祉法人さんかく広場事例検討会 助言者（9月17日）
4. 高知市相談支援事業所生活支援検討会 助言者（10月26日、2月22日）
5. 高知県中央東福祉保健所管内相談支援事業所相談支援事例検討会 助言者
（7月22日、10月26日、11月30日、1月25日）

（3）学外非常勤講師

1. 高知医療学院（「社会福祉学」担当）
2. 土佐リハビリテーションカレッジ（「社会福祉概論」担当）

○総合評価及び今後の課題

（１）教育活動について

今年度は、昨年度に引き続き、シラバス分析、リアクションペーパー、授業評価などを通じて授業改善を図ること、また、その改善効果を測定するためのティーチング・ポートフォリオを設計することを主な課題として、教育活動を展開した。具体的には、リアクションペーパーによる学習自己評価、中間的効果測定による理解度評価、課題演習による習熟度評価、の三段階による評価的ポートフォリオを作成し、授業の改善目標とポートフォリオによる査定との比較から更なる改善点の抽出及び授業改善に努めた。来年度は、学生自身による学習自己評価の情報を体系的に集約し、学生の視点からの更なる授業改善を進めていきたい。

（２）研究活動について

今年度は、ここ数年間の研究課題であった、精神障害者グループホームにおける評価支援ツールの開発について、課程博士論文の形で成果をまとめることができ、学位授与によってその社会的評価を得ることができた。来年度は、新たに獲得した科学研究費補助金を活用し、評価支援ツールの電子ツール化を進める予定である。併せて、中央東福祉保健所、相談支援事業所、高知県自立支援協議会人材育成部会などと共同で進めている、相談支援専門員の研修システム開発について、研究者の立場で一定の役割を果たしていきたい。

西梅 幸治

Koji NISHIUME

○研究活動

（1）研究会参加

- 1) エコシステム研究会（関西福祉科学大学大学院 太田義弘教授主催）への参加
- 2) 高知県スクールソーシャルワーカー研究会への参加

（2）研究資金の導入

- 1) 文部科学省科学研究費若手研究（B）「ストレングス視点に基づく知的障害のある人との協働アセスメント方法の構築」（平成 22～24 年度）
- 2) 文部科学省科学研究費基盤研究（B）「分担研究：ソーシャルワーク教育における研修方法とプログラムの開発に関する研究」（平成 20～23 年度）
- 3) 文部科学省科学研究費挑戦的萌芽研究「分担研究：生活支援実践ツールの試行から実践導入への検討」（平成 21～23 年度）
- 4) 鈴木孝典・西梅幸治・西内章・國重智宏（2009）「分担研究：高知県における保健・医療・福祉専門職のための学際的教育研修モデル開発について」『平成 22 年度学長裁量経費特別調査研究プロジェクト：健康・看護・福祉領域における教育研修・研究のイノベーションと開発に関する調査研究（主任研究者 住友雄資）』

（3）学会参加

- ・日本学校ソーシャルワーク学会
- ・日本社会福祉学会
- ・日本ソーシャルワーク学会

（4）論文等

論 文

- 1) 西梅幸治（2010）「エンパワメント実践における perspective 特性の検討—エコシステムと社会構成主義に焦点化して—」『高知女子大学紀要』60, 65-82.
- 2) 西梅幸治・西内章・鈴木孝典・住友雄資（2010）「インタープロフェッショナルワークの特性に関する研究—関連概念の比較をとおして—」『高知女子大学紀要』60, 83-94.
- 3) 西梅幸治・西内章・新藤こずえ（2010）「初任スクールソーシャルワーカーの実践特性と課題—高知県における活用事業をとおして—」『高知女子大学紀要』60, 95-108.
- 4) 太田義弘・西梅幸治（2010）「エコシステム構想をめぐる手法と支援ツール—ソーシャルワーク実践へのチャレンジャー—」『総合福祉科学研究』2, 関西福祉科学大学総合福祉科学学会, 1-14.

報 告

鈴木孝典・西梅幸治・西内章・國重智宏（2010）「高知県における保健・医療・福祉専門職のための学際的教育研修モデル開発について」『学長裁量経費特別調査研究プロジェクト報告書 健康長寿と人間の尊厳のまちづくり・高知』58-75.

○教育活動

（１）担当科目

- ・「相談援助の基盤と専門職」
- ・「社会福祉援助技術各論Ⅱ-a」
- ・「相談援助演習」
- ・「福祉研究演習Ⅱ」
- ・「社会福祉ふれあい実習」
- ・「社会福祉現場実習Ⅱ」
- ・「福祉の世界」
- ・「相談援助の理論と方法」
- ・「社会福祉援助技術演習Ⅰ」
- ・「福祉研究演習Ⅰ」
- ・「福祉研究演習Ⅲ」
- ・「相談援助実習指導」
- ・「社会福祉現場実習Ⅲ」

（２）クラブ活動

- ・グローバルクラブ顧問
- ・手話サークル顧問

○委員会活動

（１）全学

- ・広報委員
- ・地域創成センター推進委員
- ・キャリアセンター委員

（２）学部

- ・実習委員
- ・入試委員
- ・学生委員
- ・国試対策WG委員
- ・10期生学年担当

○社会的活動

- ・高知県スクールソーシャルワーカー活動事業 スーパーバイザー
- ・高知市教育研究所 運営委員
- ・四国中央医療福祉総合学院 非常勤講師
- ・全国社会福祉協議会中央福祉学院 通信課程講師
- ・土佐塾高等学校 高校2年生対象 SSP 講演会 講師（2010年10月）
- ・日高村立能津小学校 スクールソーシャルワーカーについての講話 講師（2011年2月）

○総合評価及び今後の課題

（１）研究活動について

研究活動については十分とはいえませんが時間を割くことができた。特に、ソーシャルワークにおける協働アセスメント方法とコンピュータ支援ツールの開発を継続的に追究することができた。また科学研究費のテーマ、スクールソーシャルワーカー活用事業、学長特枠研究に関しても、先行研究の渉猟や調査に取り組み、その成果をまとめていくことができた。

（２）教育活動について

講義・演習：

授業では、パワーポイントで作成したレジメを作成・配布し、シラバスに従い学生が重要なポイントを理解できるように工夫した。そしてレジメの他にも資料を配付し、学生の理解度を高めるように努めた。また学生からフィードバック・コメントを得ながら、授業展開の修正を行った。今後も、理論と実践を融合し理解できるような工夫を重ねたい。

実習指導：

実習科目では、face-to-face での個別指導やスーパービジョン、学生同士がお互い共感や考え方を深めることを重視してきた。今年度は個別対応によるスーパービジョン過程で内容理解や自省に関して効果がみられ、その後にそれが身につくような指導に努めた。

卒論指導：

今年度は、5名の学生の指導を行った。学生たちの状況にあわせて個別に、かつゼミでの相互作用をとおして指導に取り組んだ。

（３）委員会活動・社会的活動について

本年度は、学部10期生学年担当として、就職活動、国試対策などに他の役割と兼ねながら尽力することができたのではないかと思う。社会的活動に関して、高知県スクールソーシャルワーカー活用事業スーパーバイザーとしては3年目であり、本学と高知県教育委員会の連携に関して一定の役割を担うことができたと思う。今後も努力と経験を重ね、委員会活動・社会的活動を通じて、学内はもちろん地域や社会に貢献できるように取り組んでいきたい。

三好 弥生

Yayoi MIYOSHI

○研究活動

1. 発表

三好弥生「終末期高齢者の療養実態と介護サービス利用者の看取りの課題」日本介護福祉学第18回大会（岡山）2010年9月

○教育活動

1. 学部担当科目

- ・「コミュニケーション技術」
- ・「介護総合演習Ⅰ」
- ・「生活支援技術Ⅱ」
- ・「社会福祉入門演習」
- ・「社会福祉基礎演習」

○委員会活動

- ・入試監査委員
- ・教務委員
- ・学生委員
- ・学部1回生学年担当

○社会的活動

1. 委員等

- ・介護福祉士試験委員（2010年～）
- ・NPO法人宅老所はな「坂本地域助け合い事業」準備室委員（2009年～）

2. 公開講座

- ・高知女子大学「高校生のための公開講座③」「2070年の私－麻痺・拘縮体験編」講師，7月
- ・高知女子大学社会福祉学部「オープンキャンパス体験授業②」「あなたの想いを受け取る技術」講師，8月
- ・高知女子大学社会福祉学部「リカレント教育講座」「楽々介護入門」講師，12月
- ・NPO法人宅老所はな「わくわくクラブ」主催「団塊の世代のための生きがい探し講座2010 第1回」『現代医療と死に方』講師，9月
- ・財団法人鉄道共済会 第47回福祉セミナー「共生社会への道筋－社会福祉からの提言－」参加，7月

3. その他

- ・こうち介護フェア2010介護わくわくイベント(高知中央公園)「プチリラクゼーション」
2010年11月
- ・4大学県民講座 ふれあい体験コーナー（高知女子大学永国寺キャンパス）「手浴」
2010年12月

○総合評価及び今後の課題

着任して1年目、こちらでは介護福祉士養成のスタートでもあり、白紙からの対応を要することが多く、右往左往するばかりで1年が経過してしまった。

1. 教育活動について

介護福祉士養成においては昨年度より新カリキュラムが開始され、本学においても各科目における教育内容について吟味しつつ、関係科目間の調整が必要な状況であった。実際の授業展開においては、どのような方法で技術の習得を目指すべきか試行錯誤してきた。担当科目の一つである「生活支援技術Ⅱ」では、各々学生の日常生活における家政の技術の習得状況を踏まえつつ、授業を具体化することに苦慮した。

次年度は「介護実習」が始まり、高知県の介護福祉の現場との連携が求められる。また、担当科目も増えるため、授業展開においてはさらに創意工夫を重ねていかなければならないと考えている。

2. 研究について

今年度はほとんど何も活動することが出来なかった。次年度は、これまでの研究を発展させるべく、計画的に進めていくようにしたい。

3. 社会的活動について

介護コースの学生を主体として地域での活動を開始することができた。今年度はそれらの活動を新入生へ継続するなど発展させていきたいと思う。

○研究活動

（1）論文・報告書（2件）

- ・ 國重智宏（2010）「退院から地域定着へ」『精神障害者の退院・退所を支援する地域移行推進員等の育成に関する調査研究事業報告書』，特定非営利活動法人北海道地域ケアマネジメントネットワーク，94-95.
- ・ 岩上洋一・國重智宏・相馬妙子・吉田展章・田村綾子「地域移行支援に携わるマンパワーの役割と課題」『精神障害者の退院・退所を支援する地域移行推進員等の育成に関する調査研究事業報告書』，特定非営利活動法人北海道地域ケアマネジメントネットワーク，103-109.

（2）その他（3件）

- ・ 鬼塚香・山崎実希・國重智宏・松原玲子・井上牧子（2010）「精神保健福祉援助技術」日本精神保健福祉士協会編『第12回精神保健福祉士国家試験問題解答・解説集』へるす出版.
- ・ 「2010年度（第11回）精神保健福祉士全国統一模擬試験」（社団法人日本精神保健福祉士協会主催）問題作成
- ・ 「平成22年度精神保健福祉士全国統一模擬試験」（一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会主催）問題作成

○教育活動

- ・ 「精神科リハビリテーション学」
- ・ 「精神保健福祉援助実習」
- ・ 「精神保健福祉ふれあい実習」
- ・ 「福祉の世界」（オムニバス：「精神保健福祉入門」担当）

○委員会活動

- ・ 入試実施委員
- ・ 情報処理委員
- ・ 学部教務委員
- ・ 学部実習委員
- ・ 国家試験対策支援ワーキンググループ

○社会的活動

（１）委員等

- ・ 高知県中央圏域精神障害者地域移行支援事業推進アドバイザー

（２）公開講座等

- ・ 日本精神保健福祉士協会第6回基幹研修Ⅱ・Ⅲグループリーダー（平成22年6月19日）
- ・ 高知女子大学第11回高校生のための公開講座「精神保健福祉士の仕事」講師
（平成22年7月31日）
- ・ 文京学院大学地域連携センターB I C S 精神障害者就労・余暇活動すまいる主催学習会「精神障害者地域生活における精神保健福祉士としての支援」講師
（平成22年8月21日）
- ・ 高知県精神保健福祉士協会定例研修会「病院の退院支援≠地域移行支援」講師
（平成22年10月16日）
- ・ 高知女子大学リカレント教育講座「地域移行支援における精神保健福祉士の視点」講師
（平成22年12月4日）
- ・ 東京精神科病院協会P S W部門第109回研修会「退院促進事業の援助にあたる視点」講師
（平成23年1月29日）

○総合評価と今後の課題

- ・ 「精神科リハビリテーション学」の授業では、学生が大学で学ぶ理論と現場での実践を統合できるように意識して講義を行った。まず講義形式で理論を学習した上で、ロールプレイを使って模擬体験をしてもらい、その振り返りを行った。特にロールプレイでは、学生に利用者役を演じてもらい、その感想を皆の前で報告してもらうことにより、多くの学生が利用者の気持ちを意識できるように工夫を行った。
- ・ 「精神保健福祉援助実習」における実習計画書・報告書の作成では、実習場面の振り返りなどを通して、自らの興味関心や性格傾向を把握してもらい、ソーシャルワーカーとしての自己覚知を促すような指導を行った。
- ・ 国家試験対策では、卒業論文提出後の約1ヶ月という期間で、精神保健福祉士国家試験合格レベル（6割）まで上げるための効率的な勉強方法を指導した。まず、模擬試験で成績が上がらず不安を抱える学生を対象に、過去問題を本試と同じ時間で解いてもらい、勉強のリズムをつけるような指導を行った。この勉強方法で成績が上がらなかった学生に対しては個別指導を行い、効率的な解答の仕方や勉強時間の配分などの指導も行った。今回は指導を希望した学生に対しての学習支援だったため、指導を希望しなかった学生に対してのフォローができず、今後の課題と考える。
- ・ 研究活動については十分な時間を確保できなかったため、次年度以降の課題としたい。

新 藤 こ ず え

Kozue SHINDO

○研究活動

(1) 論文・報告書（3件）

新藤こずえ「重複障害のある成人期障害者の自立観」高知女子大学紀要（社会福祉学部編）60, 109-124.

西梅幸治・西内章・新藤こずえ「初任スクールソーシャルワーカーの実践特性と課題—高知県における活用事業をとおして」高知女子大学紀要（社会福祉学部編）60, 95-107.

長澤紀美子・新藤こずえ「国際ソーシャルワーク教育の開発」学長裁量経費特別調査研究プロジェクト報告書（「健康・看護・福祉領域における教育研修・研究のイノベーションと開発に関する調査研究」（主任研究者 住友雄資）の一部）高知女子大学

(2) 著 書（なし）

(3) 発 表（1件）

新藤こずえ「多問題家族の子どもへのスクール・ソーシャルワーカー高知県の福祉教員の実践に学ぶ—」日本学校ソーシャルワーク学会第5回大会 2010年7月

(4) 学内外の競争的資金の獲得状況（1件）

高知女子大学学長特別枠研究・事業助成費「健康・看護・福祉領域における教育研修・研究のイノベーションと開発に関する調査研究」（主任研究者 住友雄資）のうち、「国際ソーシャルワーク教育の開発」（分担：長澤紀美子・新藤こずえ）
(平成22年度)

○教育活動

障害者に対する支援と障害者自立支援制度、福祉NPO論、国際福祉論Ⅱ、社会福祉ふれあい実習、相談援助実習指導、社会福祉現場実習Ⅱ・Ⅲ、相談援助演習、土佐の健康と福祉（オムニバス）、福祉の世界（オムニバス）

○委員会活動

全学／学部学生委員会、学部実習委員会、学部教務委員会、学部総務委員会、学部予算委員会、学部入試委員会、国試対策支援ワーキンググループ

○社会的活動

(1) 委員等

- ・ 高知県社会貢献活動支援推進会議委員
- ・ 高知県社会貢献活動支援推進会議質的評価検討会委員
- ・ 高知県社会福祉協議会 高知県ボランティア・NPOセンター運営委員会委員
- ・ 高知県社会福祉協議会 「福祉・ボランティア」学びと実践推進委員会副委員長
- ・ 高知県社会福祉協議会 ボランティアセンター研究会コーディネーター
- ・ 高知市地域コミュニティの再構築に関する検討委員会委員
- ・ 高知市まちづくりファンド運営委員会委員

- ・ NPO高知市民会議 寄付先選定委員会委員
- ・ NPO高知市民会議主催「とさっ子タウン」実行委員会委員
- ・ こうちNPOフォーラム2010実行委員会ほか主催「非営利だけどお金のこと～ファンドレイジングを学ぼう」実行委員
- ・ 特定非営利活動法人「飛んでけ！車いす」の会 会員
- ・ 日本学校ソーシャルワーク学会会員 中国・四国地区世話人

(2) 学外講師等

- ・ 高知市文化振興事業団主催「高知市民の大学」講師（「障害者の生と死—日本・タイ・ウズベキスタン」を講演）
- ・ 高知県教育委員会スクールソーシャルワーカー活用事業スーパーバイザー
- ・ 南国市教育委員会スクールソーシャルワーカー
- ・ 国立病院機構高知病院附属看護学校非常勤講師（「社会福祉・演習」を担当）
- ・ 高知県社会福祉協議会主催「介護福祉士養成講座」講師（「障害者福祉論」「社会福祉援助技術」を担当）
- ・ 高知県主催児童福祉司養成講習会講師（「障害者福祉論」）

(3) 社会福祉士および精神保健福祉士国家試験を受験する学生への支援活動

- ・ 学習方法に関する相談支援活動・アンケートに基づく個別アドバイス（随時）
- ・ 国家試験ガイダンスの実施（4回）
- ・ 試験対策講座の実施（障害者福祉論）
- ・ 模擬試験の受験取りまとめ
- ・ 国家試験勉強合宿へ同行しての学習支援

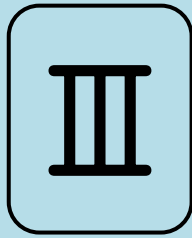
○総合評価と今後の課題

教育活動は、本年度から社会福祉士養成課程の新カリキュラムが開始したことから、「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」ほか、養成に関わる科目の進め方に工夫を要した。また、実習科目のみならず演習科目も担当することになったため、新たに教材選びや教材作成を行ったが、この経験は自分自身の学習にもなった。

さらに今年は、長澤先生とともに「国際福祉論Ⅱ」を担当した。国際ソーシャルワーク研究で、学生たちとともにタイを訪問する予定であったが、テロや暴動のために中止になってしまったことが残念であった。しかし、その代案として行った開発教育手法を用いた国際ソーシャルワーク学習プログラムの実施では、学生たちが素晴らしい力を発揮した。

4回生への国家試験受験の支援では、学習方法の提案や個別面談等を行い、学生自身がライフスタイルに合わせて計画的に学習をすすめられるよう助言を行った。学生が本来もっている力を引き出すような支援を行うことを通して、微力ながら本学の社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の合格率の維持・向上に寄与することができたと考えている。

研究活動は、私の専門であり、中心的に行っている研究「障害のある若者の自立」のフィールドワークの時間が十分に確保できなかったが、今年度からここ数年の調査研究全体をまとめる作業に入っているところである。一方、一昨年からのスクールソーシャルワーカーおよびスーパーバイザーとしての活動は、ソーシャルワークが臨床学問であるということを実感させられる経験をさせていただきながら、論文・学会発表という形で成果を残すことができた。今後は、教育活動にも反映させていきたいと考えている。



社会福祉学部教員の委員会活動
(委員会活動報告書)

教務委員会（学部FD委員会を含む）

杉原 俊二

（１）教務委員会の開催

学部教務委員会を、平成22年4月から平成23年3月までに、合計8回開催した。

（２）授業の調整

社会福祉士養成課程の旧カリキュラム（3・4回生）、新カリキュラム（2回生）、介護福祉士養成課程を含むカリキュラム（1回生）と、3つのカリキュラムが並行していた。社会福祉士の受験については、昨年度から新カリキュラムによっているので、学生に不利益がないような調整をおこなった。

（３）卒業研究論文に関する発表会の開催

4回生履修科目の「福祉研究演習Ⅲ」における卒業研究論文作成のため、『卒業研究論文執筆のてびき』を作成した。また、例年通り3回の発表会を開催した。卒論構想発表会は5月19日と26日、卒論中間発表会は10月20日、卒業研究論文発表会（最終発表会）は2月16日実施した。発表形式は昨年度と同様に、構想発表会と最終発表会は口頭発表、中間発表会はポスター発表とした。

（４）次年度のゼミ配属についての調整

12月に『平成23年度福祉研究演習Ⅰ・Ⅱ選択資料』を作成し、2回生に配付したうえで、ゼミ配属に関する希望をまとめた。本年度は、定員70名体制への移行期であり、ゼミを担当できる教員が13名であったが、1ゼミあたりの上限を4名までとして調整した。一部で調整が難航したが、最終的に10ゼミに1～4名の希望者が決定した。また、住友雄資教授が大学院教育へ重点を移すため、3回生ゼミ生の再配置が行われた。

（５）FD研修会への参加

本年度の新任教員と杉原が、愛媛大学から配信される遠隔講義のプログラム（8月25日13:00～15:00「学習評価の基本」、15:30～17:30「わかりやすいシラバスの書き方」、26日10:00～12:00「大人数講義法の基本」）へ参加した。参加者からは好評を博した。遠隔講義であれば、本学で研修が可能であり、今後とも活用する予定である。

（６）規程等の改正

来年度から公立大学法人へ移行、共学化に伴う校名変更（高知県立大学）があり、教務関係の規程等を見直し、変更をおこなった。

（７）今後の課題

精神保健福祉士も新カリキュラムへの移行が審議されており、今後、カリキュラムの変更を検討する。また、学生数の増加や共学化に伴う様々な課題に対して、対応する必要がある。

入 試 委 員 会

上 白 木 悦 子

○2010年度委員会の体制

2010年度の社会福祉学部の入試実施体制については、全学入試委員を学部長、全学入試実施委員を上白木（委員長）・鈴木・國重、学部入試委員を後藤・西梅、センター試験部会委員を鈴木が担当した。

○本年度入試の概況

1. 平成23年度に実施された入試の結果

| | | 募集人員(人) | 志願者数(人) | 受験者数(人) | 合格者数(人) | 入学者数(人) | 合格倍率(%) | 志願倍率(%) |
|------------------|------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| | | A | B | C | D | | C/D | B/A |
| 推薦 (11/13-14) | 全数 | 30 | 58 | 58 | 31 | 31 | 1.9 | 1.9 |
| | うち県内 | 20 | 31 | 31 | 20 | 20 | 1.6 | 1.6 |
| | うち男子 | - | 6 | 6 | 1 | 1 | 6.0 | - |
| 前期 (2/25-26) | 全数 | 35 | 140 | 134 | 40 | 30 | 3.4 | 4.0 |
| | うち県内 | - | 36 | 34 | 10 | 9 | 3.4 | - |
| | うち男子 | - | 35 | 33 | 8 | 7 | 4.1 | - |
| 後期 (3/12-13) | 全数 | 5 | 135 | 73 | 16 | 15 | 4.6 | 27.0 |
| | うち県内 | - | 31 | 19 | 4 | 4 | 4.8 | - |
| | うち男子 | - | 37 | 21 | 2 | 2 | 10.5 | - |
| 私費留学生 | | 若干人 | 0 | 0 | 0 | 0 | - | - |
| 総計 | 全数 | 70 | 333 | 265 | 87 | 76 | 3.0 | 4.8 |
| | うち県内 | - | 98 | 84 | 34 | 33 | 2.5 | - |
| | うち男子 | - | 78 | 60 | 11 | 10 | 5.5 | - |

前期試験の課題図書: 姜尚中(2008)「悩む力」集英社新書

○本年度入試の特徴

1. 校名変更

平成23年度4月からの校名変更（高知女子大学から高知県立大学）に伴い、入学者選抜に関する要項および各募集要項は、新名称にて募集を行った。

2. 共学化

平成23年度入学生より、共学となる。このことに伴い、平成23年度入学者選抜より、男子の受験が可能となった。

委員会活動年度報告書（入試委員会）

3. 試験会場の変更

試験会場は、これまでの永国寺キャンパスから池キャンパスへと変更となった。なお、センター入学試験は、例年通り、永国寺キャンパスにおいて実施した。

4. 学部のアドミッションポリシーを変更した。下記、変更したものを示す。

社会福祉学部は、地域の福祉課題に対応できる専門知識・援助技術を伴う実践能力を持ち、保健・医療・福祉などのさまざまな分野の関係者と連携できる社会福祉専門職の養成を目指しています。

したがって、社会福祉学部では、その実現にむけて、次のような人を求めています。

- ①高等学校で学ぶ基本的な科目の学力を有する人
- ②コミュニケーション能力、協調性、豊かな人間性をそなえている人
- ③熱意・意欲をもって、社会福祉専門職を志す人

5. 募集人員および内訳の変更

| 選抜方法 | 平成22年度(人) | 平成23年度(人) |
|-------|-----------|---------------|
| 一般推薦 | 20 | 30(県内20/全国10) |
| 前期日程 | 45 | 35 |
| 後期日程 | 5 | 5 |
| 私費留学生 | 若干人 | 若干人 |
| 合計 | 70 | 70 |

○今後の課題

- ・本年度から実施した全国推薦枠は、高知県内の受験者も含む。しかし今回は、高知県内の受験者はなく、今後、広報等による工夫を要する。
- ・前期合格者につき、入学手続者が少ない状況である。受験者の志望動向等、状況分析を要する。

以 上

学 生 委 員 会

新 藤 こ ず え

○活動方針

学生委員会は、学生の福利厚生の上昇、自主的活動の支援、学生生活に必要な情報提供を目的に活動している。

○活動内容

I. 相談活動

- ・ 健康管理センターが実施する、精神科医師、婦人科医師、保健師、心理カウンセラー等による相談窓口について、相談の利用形態、利用時間、申し込み方法等の説明を行い、掲示板などを利用して学生に周知した。
- ・ 随時、健康管理センターと連携し、本学部生の心身の健康状況把握と情報共有を行った。
- ・ メンタルヘルス、悩み事などの相談は、基本的には学年担当教員およびゼミ担当教員が対応するが、学生委員会ではその情報を集約に努めた。

II. 経済的援助

- ・ 学生からの個別相談に応じ、適宜、授業料の免除や各種奨学金の申請などについて情報提供及び手続き支援を行った。

III. 防犯活動

- ・ 犯罪の発生状況及び防犯ベルの貸し出しなど、防犯に係る情報提供および防犯講習会を実施した。
- ・ 随時、サークル活動を装ったカルト的新興宗教の勧誘等に対する注意喚起を行った。
- ・ 本学部の学生が犯罪に巻き込まれたり、事故を起こしたりした場合には、学年担当教員もしくはゼミ担当教員を通じて学生委員会が情報を集約し、その情報に基づいて学生に対し注意喚起を行った。

IV. 実習に関わる健康検査等

- ・ 配属実習にあたって、四種（麻疹・風疹・水痘・おたふくかぜ）抗体検査並びに予防接種、ツベルクリン反応検査、B型肝炎抗体検査並びにワクチン接種について情報提供を行った（健康管理センター → 学部学生委員 → 学年担当教員を通じて学生へ）。

V. 学生の自主的活動の支援

- ・ 社会福祉学部棟の掲示板、メーリングリストなどを活用し、学生生活にかかわる情報やボランティア活動に関する情報を随時、提供した。
- ・ 学生企画・主催のイベント（学年間交流会等）においてサポートを行った。

○成果と課題

学生の福利厚生の上昇に関しては、学費等経済的支援に係る相談の増加、メンタルヘルス上の課題を抱える学生の増加、カルト的新興宗教の勧誘を受ける学生の増加、本学部生が巻き込まれる犯罪や事故が起こっており、このことへの組織的な対応が喫緊の課題である。しかしながら、さしあたっては学生との関係づくりや学生に伝わりやすい情報提供・注意喚起を行うことが現実的対応となるであろう。また、サークル活動や学年間交流会等、学生の自主的活動が活発化しており、それらの活動が学生の大学生活をより充実したものになっている。学生委員会として、学生の主体性をより一層発揮できるような環境づくりを行うことが望まれる。

就 職 委 員 会

西 梅 幸 治

○本年度の取り組み

（１）全学的取り組み

キャリアセンター運営委員会では、①キャリア教育体制の充実、②進路支援対策・企業訪問強化、③インターンシップ、④進路未決定者のケアを活動方針に各取り組みを実施した。具体的な内容は、以下の通りである。

①キャリア教育体制の充実：

- ・「ジェンダーとキャリア形成」を共通教育科目に設置
- ・文部科学省「大学の就業力向上プラン」について、新科目設置や現行科目の見直しなどを教務委員会と調整することを審議

②進路支援対策・企業訪問強化：

- ・ハローワークとの連携を強化し、求人開拓、進路相談に関わるジョブサポーターを配置
- ・就活ハンドブックの修正
- ・就職活動に関わる各種講座の開催（ストレングス受検会、就業前ワンポイント講座を新規開催）
- ・しらさぎ会の後援を得て会社説明会バスツアーの開催

（２）学部での取り組み

就職に関する本学部の取り組みとして、まずキャリアセンターとの協働により、就職活動支援を展開している。個別的な支援に関しては、キャリアセンターでの相談、履歴書等の添削指導、面接指導、小論文対策指導を行い、全体としては就職に関わる各種講座を開催している。具体的には、キャリアセンターや3回生学年担当教員の協力を得て、以下の1) ガイダンスを行い、2) 成果を残すことができた。

1) 就職ガイダンス等

①就職オリエンテーション（4月8日、4回生対象）

②就職ガイダンス「家庭裁判所調査官就職説明会」（4月9日、1－4回生対象）

③就職ガイダンス「卒業生による社会福祉学部就職セミナー」（5月19日、1－4回生対象）

講師：永野薫さん（3期生：希望が丘学園）、池田洋美さん（5期生：高知県立安芸病院）
河内歩さん（5期生：高知県中央児童相談所）、小谷美和子さん（9期生：高知県社会福祉協議会）、澤本まゆさん（8期生：岡豊病院）

④就職ガイダンス「4回生による社会福祉学部就職セミナー」（3月24日、3回生対象）

講師：武内慶子さん、永橋由紀子さん、橋口理美さん、槇山英里さん、和田浩香さん（10期生）

2) 進路の状況（対象者：34名）

就職：34名（就職率：100%）

【業種別内訳】（医療機関・社会福祉施設・社会福祉系公務員のみ）

①医療業：15名（うち精神科：5名、動物病院1名）

②公務員：2名（高知県、広島市）

③社会福祉：社協2名、高齢者分野6名、児童分野2名（うちSSW1名）、障害者分野7名

【雇用形態】正社員：32名、その他：2名

【卒後勤務地】高知県内：15名、高知県外：19名

○今後の課題

今後の課題としては、①公務員試験を受験する学生への支援、②他都道府県出身者のUターンなどを含めた積極的な求人開拓、③就職希望者と求人募集のマッチングへの支援、④国家試験不合格者の内定取り消しに関する対応、⑤キャリア教育の充実などが考えられる。特に高知県内では、就職先が飽和していくことも予想されるため、上記を含めたより細やかな支援が必要であろう。

広 報 委 員 会

西梅 幸治 宮上 多加子

○本年度の取り組み

（１）「大学案内」の編集・製作

平成23年度からの高知県立大学への校名変更と男女共学化に伴い、「大学案内」を修正した。社会福祉学部の紹介ページでは、タイトル、写真、卒業生の声、年次で変更が必要な箇所について、その他では、サークル活動欄、就職先欄についても修正を行った。

（２）オープンキャンパス

社会福祉学部では、次ページ以降の資料のとおり、学部全体説明会、教員／先輩との談話室、学部紹介DVD上映、体験授業（小坂田教授、三好講師）、ゼミ室訪問、介護機器展示などのプログラムを実施した。

【平成22年度社会福祉学部での参加者数】

| | 平成 22 年 | | | 左の内、男子の内訳 | | |
|--------|---------|-----|-----|-----------|----|----|
| | 全体 | 県内 | 県外 | 全体 | 県内 | 県外 |
| 文化学部 | 154 | 98 | 56 | 10 | 6 | 4 |
| 永国寺 | 154 | 98 | 56 | 10 | 6 | 4 |
| 看護学部 | 240 | 198 | 42 | 12 | 12 | 0 |
| 社会福祉学部 | 102 | 66 | 36 | 7 | 3 | 4 |
| 健康栄養学科 | 260 | 149 | 111 | 12 | 12 | 0 |
| 池 | 602 | 413 | 189 | 31 | 27 | 4 |
| その他 | | | | | | |
| 計 | 756 | 511 | 245 | 41 | 33 | 8 |

※池の学部の数値は、資料請求登録者数

※文化学部のみ資料配付数

※学部参加者の詳細

男：女＝7：95

県内：県外＝66：36

| 都 道 府 県 別 | 東京 | 1 |
|-----------------------|-----|----|
| | 和歌山 | 1 |
| | 兵庫 | 2 |
| | 岡山 | 10 |
| | 広島 | 3 |
| | 鳥取 | 2 |
| | 山口 | 1 |
| | 大分 | 1 |
| | 香川 | 5 |
| | 愛媛 | 5 |
| 徳島 | 5 | |

本年度プログラムは、全体的に好評であったが、特に学部全体説明会、体験授業、談話室、ゼミ室訪問が好評であった。また昨年同様、保護者数も増加し、待合室設置が十分とはいえないが効果的であった。

（３）在学生による高校訪問

昨年度より夏季休業期間中に、県外出身の学生が出身高校を訪問し、大学・学部PRを行う取り組みを実施している。今年度は取り組みを拡大し、1回生32名が出身高校を訪問して、男女共学化、全国推薦、大学生生活などについてPRを行った。

（４）学部PRポスター、チラシの作成

昨年度から継続してPRチラシの作成を行っている。本年度は、介護福祉士養成課程スタート、校名変更・男女共学化、全国推薦についてアピールできるような内容で構成し、ポスター2000部、チラシ3000部を作成した。

○今後の課題

学部定員増と介護福祉士養成課程の創設、男女共学化に対応した学部広報活動が今後も継続的に必要である。来年度は、公立大学法人、3福祉士対応などのメリットを活かし、高校生、家族、進路指導担当を対象に広報活動を展開していきたい。具体的なツールとしては、学部パンフレットの作成や学部紹介DVD、インターネットの活用などを検討していきたい。またオープンキャンパスについても、魅力的なプログラム構成、保護者対応の充実、全学プログラムとのスムーズな調整に努めたい。

オープンキャンパス 2010 に関するアンケート — 結 果 —

高知女子大学社会福祉学部 広報委員会

- 開催日：2010年8月1日(日)
- 会 場：高知女子大学池キャンパス、永国寺キャンパス
- 資 料 請 求 数：102（受験生100、保護者2）
- アンケート回収数： 71（受験生 70、保護者1）
- 記 名：61（うち名前のみ記入1）
- 無記名：10（うち学校名・学年ともに記入7、学年のみ記入2、保護者1）
- 学年別：1年生5名、2年生21名、3年生42名、中学3年生1名、不明2名
(うち保護者1)
- 県内／県外比：県内 16校 48名／県外 19校 19名、不明4名（うち保護者1）

1. オープンキャンパスのことを
どこでお知りになりましたか？

| | |
|-----------|-----------|
| ① 進路指導の先生 | 31 |
| ② ポスター | 14 |
| ③ 大学の広報 | 11 |
| ④ 友人 | 9 |
| ⑤ テレビ | 0 |
| ⑥ 新聞 | 2 |
| ⑦ 進学情報誌 | 4 |
| ⑧ インターネット | 22 |
| ⑨ その他 | 1 |
| 計 | 94 |

※複数選択あり

- ⑥ 高知新聞 2
- ⑧ 大学ホームページ 4 ベネッセ 3
- ⑨ 知人 1

2. 社会福祉学部に関して
どのような情報が知りたいですか？

| | |
|------------------|------------|
| ① 入試関係の情報 | 24 |
| ② 教育内容・カリキュラム | 29 |
| ③ 教員の研究内容・プロフィール | 2 |
| ④ キャンパスライフ | 21 |
| ⑤ 就職状況 | 15 |
| ⑥ 資格取得に関する情報 | 13 |
| ⑦ その他 | 0 |
| 計 | 104 |

※複数選択あり

3. 社会福祉学部のオープンキャンパスで
印象的だったプログラムは何ですか？

| | |
|----------------|-----------|
| ① 学部全体説明会 | 26 |
| ② 1回生の先輩による相談室 | 14 |
| ③ 教員による相談室 | 1 |
| ④ 学部紹介ビデオ上映会 | 9 |
| ⑤ 体験授業 | 19 |
| ⑥ 介護機器展示 | 3 |
| ⑦ ゼミ室訪問 | 10 |
| ⑧ その他 | 0 |
| 計 | 82 |

※複数選択あり

委員会活動年度報告書（広報委員会）

4. 社会福祉学部に関心を持ったきっかけは何ですか？

| | |
|---------------------------------|------------|
| ① 将来は社会福祉関係の仕事に就きたいから | 56 |
| ② 資格を取得したいから | 44 |
| 社会福祉士 | 27 |
| 精神保健福祉士 | 12 |
| 介護福祉士 | 7 |
| ③ 公立大学（※来年度より県立）のため私学に比べ学費が安いから | 30 |
| ④ 地元の大学で自宅から通えるから | 13 |
| ⑤ 高校や塾の先生に勧められたから | 9 |
| ⑥ 親に勧められたから | 9 |
| ⑦ 来年度より共学化されるから | 6 |
| ⑧ その他 | 4 |
| 計 | 183 |

※複数選択あり

5. 本学の社会福祉学部へ進学を希望しますか？

| | |
|------------------|-----------|
| ① ぜひ進学したい | 45 |
| ② できれば進学したい | 10 |
| ③ 希望しない | 1 |
| ④ 他の学部と迷っている・考え中 | 15 |
| 計 | 71 |

④ 他の大学にも興味があるから。

④ まだ決めれない…。

④ 他に行きたい大学がある。

④ 教育系にも興味があるので。

④ 他の大学と迷っている。

④ コミュニケーションにとっても興味があるので少し迷っています。

④ 中学生で迷っている。

④ 自宅通学か自宅外か迷っている。（※県外の生徒）

6. その他、ご意見ご感想をお書きください。

| | |
|--|--|
| 先輩の話をたくさん聞いて、より高知県立大学で福祉について学びたいと思いました。たくさん質問に答えていただき、ありがとうございました。 | 今回このオープンキャンパスに参加して色々なことが分かったのでとても良かったです。すぐ役立ちました。ありがとうございました。 |
| とても学生の方や、先生方によくしていただき、大学のことを知ることができました。「大学の外に出て調査する」という学生の方のお話を聞き、とても興味をもちました。昨日に引き続き、ありがとうございました。 | 体験授業で、全く知らない人たちとペアになってやるのは、不安だったけど、仲よくなれて、色々コミュニケーションの勉強にもなったし、友達もできてよかった。 |
| 今回のオープンキャンパスを通じて、前々から少し興味があった社会福祉関係について学べたので来て良かったなと思いました。又機会があれば訪れたいと思います。 | 今日のオープンキャンパスに参加して大学のことがよく分かりました。ありがとうございました。 |
| 社会福祉はとても良い事だけど自分にはできそうにないなと思った××× | みんな優しかったし、雰囲気よかった。体験授業が楽しかった。 |
| 1回生の先輩による相談室で、入試のことについて詳しく教えてくださったので、とても分かりやすかったです。 | 学部の事がくわしく知れて、より、入学したい気持ちが強まりました。ありがとうございました。 |
| 学生さんや先生方がとても優しくて、良い大学なんだということが伝わってきました。また、設備も整っていて快適でした。県立大にぜひ進学してみたいです。 | 介護福祉士のコースが新しくできて、実際に学んでいる学生からたくさんお話が聞けて、より具体的なイメージを持つことができました。ぜひ進学したいです。 |
| 先輩がすごく優しく、資料だけでは伝わらない事を多く知る事が出来ました。それぞれの資格、取得方法も知る事が出来て良かったです。具体的な進路や卒業後の就職先を考える事が出来て、これからの自分の進路を前よりも明確にする事が出来ました。 | 私は、1回生の方々との対談が楽しかったです。いろいろ話しかけてくれて、とても楽しくお話できました。福祉につくなら、ここに来たいなと思いました。いろいろ受験のことも教えてくださってためになりました。 |

委員会活動年度報告書（広報委員会）

| | |
|--|--|
| <p>オープンキャンパスに来て本当によかったと思いました。特に先輩たちがとても優しくいろんな話をしてくれ、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。今回先輩たちの話を聞いたり、授業を体験してより高知県立大学に入りたいという気持ちが高まりました。</p> | <p>ビデオ上映や、体験授業の内容が、とても感動しました。社会福祉の仕事につきたいと強く思えました。</p> |
| <p>1回生の先輩による相談室がとても印象的です。入試や面接のことについてとても参考になりました。一番大切なことは自分の意見をつきとおすすめだと教えてもらったので、福祉について色々調べ自分なりの考えを見いだそうと思います。介護機器展示も見させてもらって、昨日聞けなかったストレッチャーについて聞けたのでよかったです。体験授業は途中から受けましたが、大学の授業が高校とは違うことがわかりました。ありがとうございました。</p> | <p>ビデオ上映すごく楽しかったです。相談室では先生や先輩方が優しく、楽しくいろんな話をしてくれたのでとても興味をもちました。ありがとうございました。</p> |
| <p>介護機器展示が楽しかったです。スイッチ一つで動く介護機器は人の負担を軽くするので介護する側の人にも優しいと思います。</p> | <p>1回生の話はすごくためになりました！！とても詳しくよかったです。ビデオ上映、面白かったです。</p> |
| <p>小坂田稔教授の体験授業を受けて、この仕事の必要性がよく分かりました。</p> | <p>説明もよく福祉についてもっと興味を持てた。</p> |
| <p>1回生の先輩方から話を聞いたことがとても良かった。一層入学したいという気持ちが高まった。先輩から聞いたアドバイスを生かして、入学できるようがんばっていきたい。</p> | <p>1期生の体験記が聞いてなかったです。ビデオ上映は学生の生活がわかりました。</p> |
| <p>1回生の先輩の相談会やゼミ室訪問で高知女子大学をとても身近に感じれ、推薦入試についてもくわしく知れました。少人数制のゼミ室の制度はとてもよいものだと思います。</p> | <p>先輩方のお話すごくよかったです。私もがんばろうと思えました。ありがとうございました。</p> |
| <p>介護の体験授業の演習がおもしろかった。実際やってみないとわからないこともあるので、いい体験になったと思う。</p> | <p>学食がおいしかったです。体験授業が勉強になりました。初めてのオープンキャンパスに高知女子大学を選んで良かったです。</p> |
| <p>社会福祉学部にはいらっしゃる先輩たちからたくさん話をきいて、すごく大学が楽しそうだと思ったし、社会福祉に関する研究もすごい興味がわいて、ますますいきたいと思いました。入試がんばりたいと思います！！</p> | <p>小坂田先生の授業を体験し、ソーシャルワーカーのあり方や具体的を通して福祉の現場を知り、また一段と福祉の仕事に就く志が強くなりました。</p> |
| <p>授業を体験して、さらに社会福祉士に興味をもちました。</p> | <p>学食のカロリー表示がよかった。</p> |
| <p>先輩との話が本当楽しかったです。ますます行きたくなりました。</p> | <p>オープンキャンパスに参加してみて、資料やパンフレットだけでは分からなかったことをたくさん知る事ができてよかった。先輩の話もすごくよかった。</p> |
| <p>社会福祉に対する興味がさらにましました。</p> | <p>先輩の話を聞いてよかったです。</p> |
| <p>この学校は、設備も整っていて、先生と生徒の距離が近い所がすごく魅力的でした！！自分の学びたいものを自分自身で考え行動できることに興味をもちました！！</p> | <p>初めて介護ソフトを体験して、最近介護の現場も変わってきているのかなど実感することができました。外部から来たのですが、後者も設備も整っていて、良かったです。</p> |
| <p>今日はありがとうございました。講義がとてもおもしろくて、勉強になりました。大学の授業に体験できてとてもよかったです。</p> | <p>社会福祉士の仕事について今まで以上に知れてよりいっそう社会福祉士になりたいと思った。</p> |

※アンケート結果はすべて原文ママ

委員会活動年度報告書（広報委員会）

参考：オープンキャンパス参加人数（年度別）

| | 平成16年 | | | 平成17年 | | |
|-----|------------|-----|----|------------|-----|-----|
| | 全体 | 県内 | 県外 | 全体 | 県内 | 県外 |
| 永国寺 | 119 | 93 | 26 | 217 | 144 | 73 |
| 池 | 99 | 77 | 22 | 158 | 129 | 29 |
| 計 | 218 | 170 | 48 | 375 | 273 | 102 |

| | 平成18年 | | | 平成19年 | | |
|----------|------------|----|----|------------|-----|-----|
| | 全体 | 県内 | 県外 | 全体 | 県内 | 県外 |
| 文化学部 | | | | 59 | 52 | 7 |
| 生活デザイン学科 | | | | 38 | 22 | 16 |
| 健康栄養学科 | | | | 118 | 66 | 52 |
| 環境理学学科 | | | | 4 | 2 | 2 |
| 永国寺 | ※データなし | | | 219 | 142 | 77 |
| 看護学部 | | | | 125 | 109 | 16 |
| 社会福祉学部 | | | | 55 | 35 | 20 |
| 池 | ※データなし | | | 180 | 144 | 36 |
| その他 | | | | 46 | 20 | 26 |
| 計 | 381 | — | — | 445 | 306 | 139 |

| | 平成20年 | | | 平成21年 | | |
|----------|------------|-----|-----|------------|-----|-----|
| | 全体 | 県内 | 県外他 | 全体 | 県内 | 県外 |
| 文化学部 | 98 | 76 | 22 | 78 | 62 | 16 |
| 生活デザイン学科 | 56 | 34 | 22 | — | — | — |
| 健康栄養学科 | 100 | 46 | 54 | 158 | 84 | 74 |
| 環境理学学部 | 7 | 3 | 4 | — | — | — |
| 永国寺 | 261 | 159 | 102 | 236 | 146 | 90 |
| 看護学部 | 121 | 110 | 11 | 176 | 152 | 24 |
| 社会福祉学部 | 47 | 42 | 5 | 82 | 59 | 23 |
| 池 | 168 | 152 | 16 | 258 | 211 | 47 |
| その他 | 6 | 2 | 4 | 0 | | |
| 計 | 435 | 313 | 122 | 494 | 357 | 137 |

※「県外他」欄「その他」4人は、受付を行ったが申込書を提出しなかった人数。よって、受付用紙総数は435-4=431枚。（20年度）

※ 数値は、資料請求登録者数

| | 平成22年 | | | 左の内、男子の内訳 | | |
|--------|-------|-----|-----|-----------|----|----|
| | 全体 | 県内 | 県外 | 全体 | 県内 | 県外 |
| 文化学部 | 154 | 98 | 56 | 10 | 6 | 4 |
| 永国寺 | 154 | 98 | 56 | 10 | 6 | 4 |
| 看護学部 | 240 | 198 | 42 | 12 | 12 | 0 |
| 社会福祉学部 | 102 | 66 | 36 | 7 | 3 | 4 |
| 健康栄養学科 | 260 | 149 | 111 | 12 | 12 | 0 |
| 池 | 602 | 413 | 189 | 31 | 27 | 4 |
| その他 | | | | | | |
| 計 | 756 | 511 | 245 | 41 | 33 | 8 |

※ 池の学部の数値は、資料請求登録者数

※ 文化学部のみ資料配付数

【オープンキャンパス パンフレット表紙（作成：社会福祉学部4回生 吉村奈都代）】

高知女子大学 2010 Open Campus
オープンキャンパス
2010.8/1日
10:00～16:00

高知立大学 男女共学!! 2011

池キャンパス 10:00～16:00 開場
 【看護学部】
 10:00～11:00 14:00～15:00 学部説明会
 10:00～16:00 看護を体験しよう！
 11:00～14:00 看護教諭・助産師になりたい相談
 【社会福祉学部】
 10:00～10:50 13:00～13:50 学部説明会
 11:00～12:00 教員/先輩との談話室
 14:00～15:45 体験授業
 【健康栄養学部】
 10:00～16:00 教員と学生のQ&Aコーナー
 10:00～16:00 世界の朝食ハネル展示
 11:00～12:00 学部説明会

永国寺キャンパス 10:00～17:00 開場
 【文化学部】
 10:15～11:50 先輩に聞く キャンパスツアー
 11:50～16:00 理母大生に聞いてみよう！
 14:00～16:45 高校生のための化学講座

大学ホームページもご覧ください。
<http://www.kochi-wu.ac.jp>

【オープンキャンパス プログラム】

Welcome
'10 社会福祉学部 オープンキャンパス
 社会福祉学部のすべてがわかる！

| | | | | | | |
|-----|-----------------------|--|--------------------------|-------------------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 10時 | 共用棟2階 講義室 | 共用棟F階 全 | E102講義室 | E103講義室 | F110講義室 | E棟4F演習室 |
| 11時 | 自由見学 | 学部全体説明会 [10:00-10:50] | 教員/先輩との談話室 [11:00-12:00] | 少人数で行われるセミナーの様子について先生や先輩に、色々聞いてみよう！ | 体験授業① [14:00-14:45] 大好評 | 体験授業② [14:35-15:45] 大好評 |
| 12時 | 自由見学 | 学生撮影の学部紹介ビデオを上映しています (随時) | 教員/先輩との談話室 [11:00-12:00] | 少人数で行われるセミナーの様子について先生や先輩に、色々聞いてみよう！ | 体験授業① [14:00-14:45] 大好評 | 体験授業② [14:35-15:45] 大好評 |
| 13時 | 学部全体説明会 [13:00-13:50] | 食費で学生アトラクション 12:00～13:00 (太鼓部とよさこいチームグループ) | 教員/先輩との談話室 [13:00-15:45] | 少人数で行われるセミナーの様子について先生や先輩に、色々聞いてみよう！ | 体験授業① [14:00-14:45] 大好評 | 体験授業② [14:35-15:45] 大好評 |
| 14時 | 学部全体説明会 [13:00-13:50] | 看護部体験講座 介護体験を実施しています | 教員/先輩との談話室 [13:00-15:45] | 少人数で行われるセミナーの様子について先生や先輩に、色々聞いてみよう！ | 体験授業① [14:00-14:45] 大好評 | 体験授業② [14:35-15:45] 大好評 |
| 15時 | 学部全体説明会 [13:00-13:50] | 看護部体験講座 介護体験を実施しています | 教員/先輩との談話室 [13:00-15:45] | 少人数で行われるセミナーの様子について先生や先輩に、色々聞いてみよう！ | 体験授業① [14:00-14:45] 大好評 | 体験授業② [14:35-15:45] 大好評 |
| 16時 | 学部全体説明会 [13:00-13:50] | 看護部体験講座 介護体験を実施しています | 教員/先輩との談話室 [13:00-15:45] | 少人数で行われるセミナーの様子について先生や先輩に、色々聞いてみよう！ | 体験授業① [14:00-14:45] 大好評 | 体験授業② [14:35-15:45] 大好評 |

何でも先輩、教員に聞いてください。丁寧に答ええます。

14:00～14:45 学部の授業を体験しよう！
「これからの社会と社会福祉士の役割—地域福祉の視点から」
 小坂田 稔 教授

14:55～15:45 学部の授業を体験しよう！
「あなたの想いを受け取る技術」
 三好 弥生 講師

永国寺キャンパスと池キャンパスの間をシャトルバスが運行します。

【学部PRポスター】



平成23(2011)年4月 高知女子大学は、
高知県立大学に名称変更し男女共学に
西日本の公立大学で唯一、3福祉士資格に対応した社会福祉学部です

全国推薦を導入します

推薦入学試験での合格チャンス拡大

これまでの県内推薦に加え、全国推薦（10名：全国各高等学校等1名以内）で全国から意欲ある学生を募集します

将来の進路に合わせてコース選択によりダブル資格を取得可能

社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の3福祉士資格に対応

【社会福祉コース】 「社会福祉士」の国家試験受験資格取得

【精神・社会福祉コース】 「精神保健福祉士 + 社会福祉士」のダブル国家試験受験資格取得

【介護・社会福祉コース】 「介護福祉士 + 社会福祉士」のダブル国家試験受験資格取得

全国トップクラスの
国家試験合格実績

平成22年3月卒業・第9期生の合格率

社会福祉士国家試験 **73.3%** (全国平均 27.5%)
※現役合格率全国12位(200校中)

精神保健福祉士国家試験 **88.2%** (全国平均 63.3%)
※現役合格率全国25位(111校中)

平成21年3月卒業・第8期生の合格率

社会福祉士国家試験 **78.4%** (全国平均 29.1%)
※現役合格率全国14位(199校中)

精神保健福祉士国家試験 **93.8%** (全国平均 61.7%)
※現役合格率全国12位(110校中)



高知県立
高知女子大学社会福祉学部

〒781-8515 高知市池2751番地1
TEL: 088-847-8700 (代表)

高知女子大学 社会福祉学部

検索

<http://www.kochi-wu.ac.jp/>

地域創成センター

西梅 幸治 宮上 多加子

○本年度の取り組み

（１）全学的取り組み

地域創成センター推進委員会をとおして、①地域創成活動推進システムの強化、②男女共学化と校名変更への対応、③生涯学習支援の強化、④産学官民連携活動の強化、⑤高大連携活動の強化、⑥外部資金の導入などについて審議し、充実した展開を図ることに努めた。特筆すべき事項は、次の通りである。

①地域創成活動推進システムの強化：KWUニューズレターの編集

| ニューズレターNo. | 本学部に関わる記事内容 |
|------------|---------------------------------|
| No. 22 | 地域貢献活動紹介：スクールソーシャルワーク活用事業への支援 |
| | 学生活動紹介：高知ふくし機器展への参加 |
| No. 23 | 学生活動紹介：「まなびピア高知2010」への参加 |
| | 学生活動紹介：YCPK（若者の防犯ボランティアin高知）の紹介 |
| | 学生活動紹介：Japareanのよさこい祭りへの参加報告 |
| No. 24 | 地域貢献活動紹介：スクールソーシャルワーク活用事業への支援 |
| | 教員の研究シーズ：上白木講師の紹介 |

②男女共学化と校名変更への対応：校章・学歌の検討

③生涯学習支援の強化：

全国生涯学習フォーラム「まなびピア高知2010」への参加と協力

社会福祉学部4回生（有木、楠本、中野、西村、矢野）が地域再生フォーラム『地域を元気にする研究事例発表とシンポジウム』大学生の部において、最優秀賞を受賞

各種講座開催：（２）を参照

（２）学部での取り組み

1) 高校生のため公開講座

本講座は、高校生を対象に社会福祉の理解を深めてもらうと同時に、四国で唯一の公立大学で社会福祉を学ぶことのできる本学部を認識してもらう機会とし、毎年開催している。

| | |
|--------|--|
| 開催日 | 7 / 3 1（土） |
| 会場 | 社会福祉学部棟 E103（講義室1）、看護福祉棟 F110（小講義室）他 |
| 参加総数 | 16校 43名（申込み：18校 46名） |
| 学年別 | 1年生 3名、2年生 13名、3年生 27名 |
| 県内／県外比 | 県内 13校 38名（うち私立2校4名）／ 県外 3校 5名（うち私立0校） |

2) 社会福祉学部リカレント教育講座

本講座は、本学部主催で社会福祉専門職の再教育の場として無料で開催している。この講座には、卒業生も参加している。本年度の講師は、新任教員を中心とし、今日的関心の高いテーマで4回開講した。

| | |
|---------|--|
| 開催日(講師) | 10/31(黒田准教授)、11/29(小坂田教授)、12/4(國重助教)、12/18(三好講師) |
| 会 場 | 社会福祉学部棟 E103 (講義室1)、看護福祉棟 F110 (小講義室) 他 |
| 参加総数 | 受講希望者延べ人数：127名、実際の参加者延べ人数：81人 |
| 参加者層 | 医療福祉関係専門職、ボランティア団体、卒業生、地域住民、高校生など |

○今後の課題

全学的な取り組みについては、ニューズレター記事を積極的に情報収集し、掲載することに努めたい。また学部開催の講座については、①台風などの影響による講座延期の判断と対応、②土日開催のため、警備との円滑な連絡調整、③周知・配布のための広報ラインのシステム化、④全学HPへの積極的なリンクによる情報提供、などが課題であると感じた。魅力的な企画・実施が求められる業務のため、今後もさらなる工夫に努めたい。

【高校生のための公開講座 2010 パンフレット】

ごあいさつ

社会福祉に対する理解を深めていただくとともに、四国で唯一の公立大学で社会福祉を学べ、西日本で唯一の社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の受験資格が取得可能な高知女子大社会福祉学部
の存在を認識していただくために、「高校生のための公開講座」を開催いたします。今年度は朝権時
期をオープンキャンパスの前日に変更し、高知県内や県外の高校生を対象といたします。

夏休みのひととき、本学部で普段行われているような講義を聴いたり、先生方に直接質問したりでき
ますので、本学部の雰囲気に触れる絶好の機会となります。日ごろから社会福祉に関心を持たれてい
る人だけでなく、たくさんの方に受講していただきたいと思っております。

高校生の皆様のご参加を心からお待ち申し上げます。

高知女子大学社会福祉学部

学部長 前山 智

高校生のための 公開講座 2010

—Welcome to 高知女子大学社会福祉学部—

高知女子大学社会福祉学部は、社会福祉領域のプロフェッショナルを養成する、四国内で唯一の公立大学です。さらにこの春、西日本でただ一つ、3福祉士資格に対応した公立大学となりました。未来のプロフェッショナルを育てる高知女子大学の雰囲気、この夏、体験してみませんか？

社会福祉士合格率 73.3%（全国平均 27.5%）
 精神保健福祉士合格率 88.2%（全国平均 63.3%）
 就職率 100%（2009 年度卒業生）





2010年7月31日(土) 開講！

高知女子大学社会福祉学部 ●池キャンパス●

ホームページ <http://www.kochi-wu.ac.jp/~fukushi/>

高知女子大学は、平成 23 年度より 高知県立大学 に
名称変更し男女共学となります。

高校生のための公開講座の受講申込方法

1. 高校生公開講座受講申込書（別紙）に必要事項をご記入ください（黒のボールペンなどを用いて、楷書でハッキリとお書きください）。

2. 高校の先生を通じて、FAXか郵送でお申し込みください。参加費は無料です。
お申込み締切は、7月16日（金）必着
 【お申込み先】〒781-8515 高知市池 2751-1 FAX：088-847-8672
 高知女子大学社会福祉学部・高校生公開講座係

3. 使用教室の関係で、参加定員は70名とさせていただきます。受講希望者多数の場合は、学校・学年などを参考に人数を調整させていただくことがありますので、あらかじめご容赦ください（参加定員等の都合で参加いただけない場合、7月23日（金）までにお申込者様宛にご連絡いたします）。

* 講座は高校2、3年生対象で、男女問わず参加可能です。

第11回 高校生のための公開講座
今年度のLINE-UP！

| 7月31日(土) | |
|--------------------|---|
| 10:00~ | 【池キャンバスへのアクセス】バス：土佐電ドリームサービス 医療センター・女子大・望海ヶ丘線 高知駅前 はりまや橋 高知医療センター 高知女子大学 9:10 → 9:17 → 9:36 → 9:38 大人片道390円 330円 (望海ヶ丘 行) 【開講式】高知女子大学社会福祉学部の紹介 (前山 智 教授) |
| 1時限 10:20~11:50 | 【講座①】社会福祉士に関わる授業 「医療現場で働くソーシャルワーカーの役割」 (上白木 悦子 講師) |
| 昼休み | |
| 2時限 12:50~14:20 | 【講座②】精神保健福祉士に関わる授業 「精神保健福祉士のしごと」 (國重 智宏 助教) |
| 3時限 14:30~16:15 | 【講座③】介護福祉士に関わる授業 「2070年の私」 (黒田 しづえ 准教授) |
| | 【池キャンバスからのアクセス】バス：土佐電ドリームサービス 医療センター・女子大・望海ヶ丘線 高知女子大学 高知医療センター はりまや橋 高知駅前 16:46 → 16:50 → 17:11 → 17:16 大人片道330円 390円 |

※スケジュールが若干変更になる可能性があります。予めご承知おきください。



・教室は、社会福祉学部棟E103教室です。

・7/31(土)は学内の売店・食堂が休業しておりますので、各自で昼食をお持ちください
 ・8/1(日)は高知女子大学オープンキャンパスが開催されます(事前申込不要)
 こちらにもぜひお越しください。

第11回 高校生のための公開講座 受講申込書

2010年 月 日

| (フリガナ) 高等学校の 担当教員名 | | | | |
|------------------------------|-------------|---------------|----|--------------|
| (フリガナ) 高等学校名 | | | | |
| 高等学校の 所在地 等 | | | | |
| TEL | FAX | | | |
| 受講希望者全員の氏名(フリガナ)・学年・利用予定交通手段 | | | | |
| No | お名前 (漢字) | お名前 (フリガナ) | 学年 | 利用予定 交通手段 |
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |
| 4 | | | | |
| 5 | | | | |
| 特記事項 | | | | |

※本学部がこの申込書によって知り得た個人情報には、「第11回高校生のための公開講座」実施の目的以外には利用しません。

申込締切(必着) : 2010年7月16日(金)

| | |
|-------|--|
| 大学使用欄 | |
|-------|--|

高知女子大学社会福祉学部

FAX(学部専用) : 088-847-8672

【高知女子大学 社会福祉学部 リカレント教育講座パンフレット】

ごあいさつ



高知女子大学社会福祉学部
学部長 前山 智

日頃は、本学の社会福祉教育にご理解・ご協力を賜りありがとうございます。
高知女子大学社会福祉学部は、平成22年度より定員を30名から70名に増員し、介護福祉士の国家資格取得コースを設置し、3つの福祉士国家資格（社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士）に対応しています。また平成23年度より高知県立大学に名称変更し、男女共学となります。しかし今後も face-to-face のきめ細やかな教育をおこなうために専任教員を随時増やし対応していく予定です。

今年度のリカレント教育講座につきましては、高知女子大学社会福祉学部へ新たに加盟した教員が、地域の保健・医療・福祉に携わるスタッフの方々や地域にお住まいの皆さまへの紹介を兼ねて講演をいたします。

お気軽にご参加頂き、日頃の実践に多少なりともお役に立てれば幸いです。



今年度のリカレント教育講座は、

社会福祉学部の新任教員の魅力的な講座です！



高知女子大学社会福祉学部
リカレント教育講座担当 西梅 幸治

今年度のリカレント教育講座は、4月に着任した新任教員が担当し、介護や地域福祉、地域移行支援に関連するテーマを用意しております。これらは、人間とその社会生活を捉えるうえで極めて今日的で重要なテーマであると考えられます。ご関心をもたれているテーマに応じて、ご参加いただければ幸いです。

いずれの講演も、各担当講師が日頃の研究成果をふまえ、熱意をこめてお話ししますので、福祉・医療分野の専門職のみならず、県民のみならずのご参加を心よりお待ちしております。

高知女子大学社会福祉学部 リカレント教育講座

一知のフィールドへの招待ー

2010年10月30日(土)

11月28日(日)

12月4日(土)

12月18日(土)




高知女子大学は

平成22年度、西日本で唯一3福祉士資格対応の公立大学社会福祉学部となり、
平成23年度より高知県立大学に名称変更し、男女共学となります


平成22年度 リカレント教育講座

講演 ②

| | | | |
|--------|--|------------|--|
| テーマ | これからの地域福祉の在り方 一地域包括ケアシステムの 構築に向けて一 | 日時 (場所) | 11/28 (日) 13:30～15:30 (共用棟 大講義室) |
| 担当講師 | 教 授：小坂田 稔 | 定 員 | 100名 |
| 内 容 | <p>講 義 形 式</p> <p>急速に少子・高齢化が進む今日、地域では介護や子育てなどを取り巻く様々な問題が起こっています。こうした問題を解決していくためにはどのような取り組みが求められているのでしょうか。</p> <p>誰もが住み慣れた地域でいきいきと暮らししていくためには地域福祉の実践が、これからの重要な課題となっています。では地域福祉とはどんな取り組みでしょうか、そしてこれからはどのようなあり方が求められているのでしょうか。これまでのような取り組みでは、様々な地域課題にしっかりと応え、「いきいきとした暮らし」を実現していくことは難しくなっています。これからは支援の包括的な仕組みづくりが必要となつていきます。この仕組みを「地域包括ケアシステム」といいます。</p> <p>ここでは、地域福祉の意義やめざすもの、これからの在り方、そしてその仕組みづくりについて、さまざまな事例をもとに考えていきます。</p>  | | |
| プロフィール | <p>早稲田大学大学院公共経営研究科・岡山大学大学院自然科学研究科博士後期課程修了（公共経営学修士・学術博士）。</p> <p>1978年より約16年間、津山市社会福祉協議会（岡山県）にて地域福祉活動に携わる。1994年より順正短期大学助教授、2000年より美作大学助教授、教授、2010年より現職。</p> <p>専門：地域福祉学、公共経営学</p> <p>「どんなに重い病気や障がい、生活問題を抱えていても、住み慣れた地域で、いきいきと暮らしていきたい!!」-この誰にも共通の願いの実現をめざして実践と研究を続けている。</p> | | |

平成22年度 リカレント教育講座

講演 ①

| | | | |
|--------|--|------------|---|
| テーマ | 日本社会の変化と「介護」 | 日時 (場所) | 10/30 (土) 9:30～11:30 (看護福祉棟 F110) |
| 担当講師 | 准教授：黒田 しづえ | 定 員 | 50名 |
| 内 容 | <p>講 義 形 式</p> <p>「介護」という言葉や「介護」に関する事柄が、毎日の生活の中で目にしないう日が無いから、暮らしの中に頻繁に登場するようになったのは近年のことです。</p> <p>「介護」という言葉は、これまでどのような意味合いを持って使われてきたのでしょうか。日本社会の変化とともに辿ってみることで、現在の「介護」という言葉の意味するところや、私たちが置かれている状況を再認識してみる機会にしていただければと思います。</p>  | | |
| プロフィール | <p>京都府宇治市生まれ。国立大阪病院（現、独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター）付属看護学校を卒業後、臨床看護師を経て、訪問看護師として活動する。この時に協働する福祉職への関心が高まり、特に介護職の養成課程に関心を持った。平成6年より介護職種の養成にかかわっている。</p> <p>佛光大学（社会学部）卒業、大阪人間科学大学（人間科学修士）修了。</p> <p>神戸総合医療専門学校、花園大学、神戸女子短期大学において教育に携わり、現在に至る。</p> | | |


平成22年度 リカレント教育講座

講演 ④

| | | | |
|--------|--|------------|---|
| テーマ | 美々介護入門 | 日時 (場所) | 12/18 (土) 13:30~15:30 (看護福祉棟 F110 / F109) |
| 担当講師 | 講師：三好 弥生 | 定員 | 30名 |
| 内容 | <p>講義・演習形式</p> <p>この国では介護を要する人が今後も増加していくと予想されています。しかし、現時点でも介護の人材は不足しています。その理由は、低収入であること、また心身ともにキツイ、危険だから等とされています。</p> <p>ほんとうにそんなに大変なのでしょうか。</p> <p>人間は必ず老います。介護は他人事ではありません。自分自身が老いた時のため、身近な人の介護に備えるために、適切な介護の方法を実際に体験していただきます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>介護に興味をお持ちの方々、 現在ご家族の介護をなさっている方々、 ぜひご参加ください！</p> </div>  | | |
| プロフィール | <p>香川県観音寺市生まれ。看護師免許を取得後病院に勤務。 その後テイサイ・ヒスセンターで看護師・介護支援専門員として働く。 一方で、専門学校や大学の非常勤講師として介護福祉士養成に関わる。 立命館大学社会学部研究科修士（社会学修士）。 2004年より花園大学、2009年聖泉大学短期大学部にて介護福祉士の養成。2010年より現職。</p> | | |

平成22年度 リカレント教育講座

講演 ③

| | | | |
|--------|--|------------|---|
| テーマ | 地域移行支援における 精神保健福祉士の視点 | 日時 (場所) | 12/4 (土) 13:30~15:30 (社会福祉学部棟 E102) |
| 担当講師 | 助教：園重 智宏 | 定員 | 50名 |
| 内容 | <p>講義形式</p> <p>何年間も何10年間も、入院治療の必要性がないにもかかわらず、精神科病院に入院している人たちがいます。</p> <p>一方で、街の中には、精神症状や障害を抱えながらも、笑って生活している人たちがたくさんいます。</p> <p>この違いは何なのでしょう？</p> <p>支援者が視点を变えることで、そして、支援者が希望をもつことで、多くの「入院患者さん」たちが希望する街で暮らせるようになります。</p> <p>今回は「精神保健福祉士の視点」をメインテーマに掲げていますが、ディスカッションでは所属や職種を超えた議論を行いたいと考えています。「専門職」として「人」として「地域移行」について語り合ってみませんか？</p>  | | |
| プロフィール | <p>精神保健福祉士、社会福祉学修士（上智大学）</p> <p>上智大学文学部社会福祉学科卒業後、精神障害者地域生活支援センター、精神科病院勤務を経て、5年前より精神科病院からの地域移行支援に携わるようになる。八王子市生活福祉課健康管理支援員、東京都被保護者退院促進支援事業広域支援員、東京都退院促進コーディネーターと様々な立場で、退院を希望する精神障害者の地域移行支援を行ってきた。</p> <p>今年度も、高知県における地域移行推進員、ピアサポーター養成研修に携わっている。</p> <p>(精神障害者の地域移行支援に関する主な活動)</p> <p>H20年度 厚生労働省障害者保健福祉推進事業「精神障害者の円滑な地域移行を推進する地域体制整備コーディネーター等の人材養成研修プログラム開発事業」委員</p> <p>H21年度 厚生労働省障害者保健福祉推進事業「精神障害者の退院・退所を支援する地域移行推進員の育成に関する調査研究事業」中央委員会委員</p> <p>H21年度 「東京都被保護者退院促進支援事業」企画検討委員</p> | | |

平成 22 年度リカレント教育講座申込書

2010 年 月 日

| | |
|-------------------------------------|--|
| (フリガナ) | |
| 氏名 | |
| 連絡先 | |
| <input type="checkbox"/> 勤務先 | TEL |
| <input type="checkbox"/> ご自宅 | FAX |
| | E-MAIL |
| 勤務先の名称 | |
| 職 種 | |
| ↓ 受講ご希望講座に ○ をつけてください（複数講座の選択（併修）可） | |
| | 日本社会の変化と「介護」 【H22年10月30日（土）】 |
| 演 目 | これからの地域福祉の在り方 一地域包括ケアシステムの構築に向けて— 【H22年11月28日（日）】 |
| | 地域移行支援における精神保健福祉士の視点 【H22年12月4日（土）】 |
| | 業々介護入門 【H22年12月18日（土）】 |
| 本学部卒業生の場合記入 | 高知女子大学社会福祉学部 第 期生 |
| 特記事項 | |
| これまでの受講経験 | 有 ・ 無（今回が初めて） |

- 申込者がいない場合、当該講座は開講いたしません。
- この申込書によって知り得た個人情報「リカレント教育講座」実施の目的以外には利用いたしません。

お申込締切日：**各講座実施日の1週間前まで**

申込書が足りない場合はコピーしていただくか、高知女子大学社会福祉学部のホームページよりダウンロードしてください。

リカレント教育講座の受講お申込方法

リカレント教育講座申込書（別紙）の必要事項にご記入ください
（黒のボールペンなどを用い、楷書ではっきりとお書きください）



申込書を F A X または郵送でお送りください

お申込締切は、各講座実施日の1週間前まで

お申込先

【郵 送】

〒781-8515

高知市池 2751-1

高知女子大学社会福祉学部 リカレント教育講座 係

【 F A X 】

088-847-8672



当日、講座の開催会場へ直接お越しください



- いずれの講座も、ご関心のある方ならどなたでもご参加いただけます。
- 複数の講座を併修可能です。申込者がいない場合、当該講座は開講いたしません。
- 講座はすべて高知女子大学池キャンパスで開催いたします。

健康長寿センター

後藤 由美子 上白木 悦子

○活動内容

1. 健康長寿センター運営委員会

全学の運営委員会として、平成22年4月から平成23年3月までに、合計11回の会議を開催した。

2. 健康長寿センター運営委員

- 1) センター長：池田光徳先生（看護学部）
- 2) 総務企画課健康長寿センター担当職員2名
- 3) 文化学部1名、看護学部教員2名、健康栄養学部2名、社会福祉学部2名 合計10名

3. 平成22年度活動実績

実施事業のうち二重下線で示したものは社会福祉学部が主体的に関わったものである。

事業1 健康長寿社会の支える介護福祉のあり方を考える啓発事業

1) 健康長寿体験型セミナー（講演および体験・展示ブース）

第1回健康長寿体験型セミナー「栄養バランスの良い食生活」

平成22年11月28日、高知女子大学本部・健康栄養学部棟

第2回健康長寿体験型セミナー「正しく知ろう、認知症」

平成23年3月10日、仁淀川町

第3回健康長寿体験型セミナー「認知症とその理解ー安心して暮らせるためにー」

平成23年3月23日、高知女子大学永国寺キャンパス講義室

2) 地域医療フォーラム

「“暮らし”を支える医療について考えよう～在宅医療フォーラム～」

平成22年10月24日、総合あんしんセンター

3) 慢性疾患の人のための自己管理プログラム（CD SMP）

CD SMP研究について近藤房恵先生（米国サミュエル・メリット大）よりヒアリング

平成22年7月29日、高知女子大学看護学部棟

「病気とうまく付き合うためにーセルフマネジメントでできることー」講演会

平成22年11月3日、高知医療センターくろしおホール

セルフマネジメントプログラム医療者向け説明会

平成23年1月20日、高知医療センターくろしおホール

4) 高知県立小津高等学校2年生対象出前講座

「お菓子の食べ方について」

平成22年7月1日、高知県立小津高等学校被服室

事業2 高知医療センターとの協働による

健康長寿社会の実現に向けての専門識者の力量アップ事業

- 1) 高知県立大学と高知医療センターとの間で包括連携協定締結
平成 22 年 11 月 17 日、高知女子大学本部・健康栄養学部棟
- 2) 模擬患者（S P）研究会
S P 研究会
平成 22 年 9 月 15 日、高知医療センタースキルラボ
高知医療センター S P 研究会立ち上げ
平成 22 年 12 月 15 日、高知医療センター 2 階会議室
S P 参加型教育フォーラム in 岡山出席
平成 23 年 2 月 13 日、岡山大学創立五十周年記念館
- 3) 高知女子大学・高知医療センター共催学習会
「インフォームド・コンセントと説明同意文書」
平成 22 年 7 月 23 日、高知医療センターくろしおホール
「診療関連死における剖検とその意義」
平成 23 年 2 月 21 日、高知医療センターくろしおホール
- 4) 高知女子大学社会福祉学部・高知医療センター地域医療連携室共催事例検討会
「判断能力のない患者への医療の進め方 - インフォームド・コンセントにおける
判断能力の要件と医療ソーシャルワーカーの役割 - 」
平成 22 年 7 月 24 日、高知女子大学本部・健康栄養学部棟

事業3 健康長寿を目指した地域連携事業

- 1) テレ・ナーシング関連
香南ケーブルテレビと共同した番組制作
- 2) J I C A 平成 23 年度事業「へき地における医療福祉サービスの向上」
J I C A 本部との予備調査、高知女子大学他
- 3) 「高知健康長寿文庫」の整備
高知女子大学池キャンパス図書館内にコーナーを設置し、約 150 冊を開架した。

事業4 専門職人材養成事業

- 1) 医療専門職の方を対象とした著書
「皮膚で見つける内科疾患」（メディカルレビュー社）
「高齢者の皮膚トラブル F A Q」（診断と治療社）
- 2) 「高知県からのお知らせ」（エフエム高知）を通じての活動紹介
平成 22 年 5 月 12 日
- 3) 健康長寿センターパンフレット「高知県立大学健康長寿センターの活動」制作

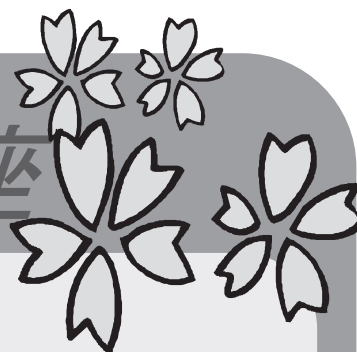
○今後の課題

健康長寿体験型セミナーのうち、本学部企画・担当のセミナー開催が、諸般の事情により、年度末となった。その分、地域住民や関連諸機関等への広報は余裕をもって行うことができたが、今後は、年度前半から中頃にかけて開催することとしたい。

以 上

【健康長寿公開講座チラシ】

健康長寿公開講座

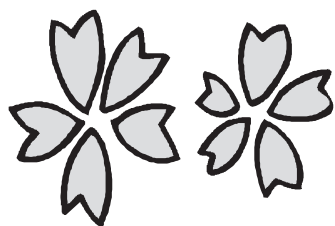


講演 認知症とその理解
— 安心して暮らせるために —

北村ゆり 先生（菜の花診療所）

当日は、展示・体験コーナーを開催しています。講演終了後に、ぜひお立ち寄りください。

- ◆日時 : 平成23年3月23日（水）
午後2時—4時（1時30分開場）
- ◆会場 : 高知女子大学 永国寺キャンパス
203教室（高知市永国寺町5-15）
- ◆参加費 : 無料
- ◆定員 : 150名
- ◆事前申込は不要です。
- ◆お問合せ先 : 088-847-8575（高知女子大学総務企画課直通）



 高知女子大学
Kochi Women's University

実習委員会

西内章

1. 活動方針

本年度より介護福祉士養成課程を導入し、実習委員会は、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士の実習に対応する体制づくりが求められることとなった。平成 22 年度の活動方針は、実習委員会組織の見直しを主とした。そのため、これまでの課題であった①実習委員会所轄事項の整理②社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士の実習事務手続きの整理③介護福祉実習が始まる 23 年度に向けた体制づくりを目指した。

実習を担当する教員・事務職員が実習において、協同する意識をもち、学生指導のみならず、実習事務書類の作成・送付作業、情報の共有化を図る体制をつくる必要があった。

2. 活動内容

介護福祉実習について「実習に関連する科目の履修要件について（申し合わせ）」に反映させた。また、今年度も「社会福祉実習のてびき 2010年度版」を作成し、授業（事前学習、配属実習、事後学習）と実習委託先との連絡・調整作業を行った。

社会福祉現場実習Ⅱ・Ⅲの配属実習は、1人あたり24日（180時間）であり、33名が実習を行った。内訳（のべ人数）は、地域包括支援センター－1名、婦人相談所－1名、市町村社会福祉協議会－16名、病院（精神科除く）－11名、特別養護老人ホーム－3名、老人保健施設－3名、児童養護施設－7名、児童相談所－5名、身体障害者授産施設・身体障害者更生施設－2名、知的障害者更生施設－2名、障害福祉サービス事業所－1名、知的障害者更生相談所・肢体不自由児通園施設－2名、母子生活支援施設－3名、通所介護事業所－1名、老人デイサービス事業－2名であった。

精神保健福祉援助実習の配属実習も、1人あたり24日（180時間）であり、19名が実習を行った。その内訳は、精神科病院－19名、精神保健福祉センター－2名、障害福祉サービス事業所－7名であった。

※なお、上述の実習生の人数については、12日（90時間）を2回実施したものについては、それぞれの実習先をカウントしており、24日（180時間）1回実施したものについてもそれを1カ所分として算出している。

3. 成果と課題

実習に関する報告は、『2010年度 社会福祉実習報告書－想い－』（2011年3月刊行）に記している。本学では実習報告書のタイトルは、編集委員を中心にして学生が命名しており、22年度のタイトルは「想い」である。また、22年度は、3月8日に介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士の実習指導者との社会福祉実習連絡協議会を実施し、学生の実習内容の発表と、実習先の実習指導者と実習担当教員の懇談を行った。特に、22年度の振り返りと23年度の実習方法の検討・確認をグループ分けし、具体的な課題を共有した。

23年度に向けた実習委員会の課題は、介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士の養成カリキュラムに対する新たな実習体制づくり、実習委員会組織の見直しである。

総務・予算委員会

長澤 紀美子

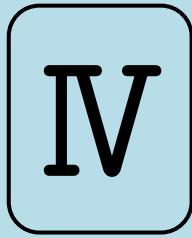
総務委員会・予算委員会として行った業務は、下記のとおりである。

1. 活動内容

- ① 教授会の資料準備及び運営：議題・資料の整理、議事メモの作成等
- ② 社会福祉学部棟施設・備品の整備
社会福祉学部棟一階E102・E103教室のモニター等教室視聴覚機器の整備を情報処理部会教員及び学部事務職員の協力をえておこなった。
- ③ 高校生見学・出前授業等に対応
平成22年度は、進路選択のため見学に訪れた県内2校に対応したほか、県内高校から依頼された出前授業への対応に住友教授・西内准教授の協力をえた。
- ④ 学部日常事務の対応
学部事務職員の協力をえて、寄贈資料、手紙の登録、整理、回覧などの仕事に対応した。
- ⑤ 平成21年度『社会福祉学部報』の編集・発行
平成21（2009）年度『社会福祉学部報』（自己点検評価資料）の冊子媒体300部を作成し、関係各所に配布した。
- ⑥ 情報処理部会関係
社会福祉学部棟学生自習室（1階・2階）の学部管理パソコンについて、ハードディスク管理ソフト及びウィルス対策ソフトを一括導入し、管理・メンテナンス業務の省力化を図った。また学部事務用の共用パソコンを一台購入した。
- ⑦ 学部PRポスター及び県外在校生の出身高校訪問
平成22年度は広報委員会で対応。
- ⑧ 学部棟等の環境整備
社会福祉学部棟2階、看護福祉棟1階・2階、共用棟1階等のラウンジ・スペースを学生がくつろげるフリー・スペースとして整備した。
- ⑨ 図書配置
図書委員や国試対策ワーキングチーム（新藤助教）と協力し、国家試験対策図書、福祉関係白書や図書、DVD・ビデオ等で教員・学生の研究・教育に資するものを教員の推薦により選び、図書費の有効活用を図った。

2. 成果と課題

定員を30名から70名に拡充し、介護福祉士養成課程が始動した記念すべき年であり、昨年度後半に改修した社会福祉学部棟、新築した看護福祉棟の設備の活用を始めた年であった。実際に教室に学生が入り、授業が開始されると、図面上ではわからなかった不便な点も散見され、教室モニターの整備など一部の教室の備品や消耗品の購入・管理を学部の負担にて行った。高知女子大学から高知県立大学へ、という学生定員増、カリキュラム変更、教員増等を伴う移行期であり、従来とは異なる対応が必要とされる。教員と大学事務職員の業務分掌の明確化、定員増に伴うハード面での課題をいかに改善するか、備品等の計画的な整備等が継続的な課題として挙げられる。



学生を中心とした活動

社会福祉士・精神保健福祉士 国家試験に向けての取り組み

3 回生後半

3 月後半に 4 回生や新藤先生から国家試験や就職についてガイダンスを受けました。今後の見通しを立てることができましたが、それと同時に「自分たちが乗り越えることができるのか」と不安になったのを覚えています。

4 回生になって

4 回生になると、卒業論文、就職活動、精神保健福祉士現場実習……。何かと忙しく、あっという間に時間は過ぎていきました。10 月後半～11 月にかけて立て続けに、社会福祉士・精神保健福祉士共に模擬試験が行われました。国家試験の勉強が手につけられていない状態で模擬試験に臨みました。模擬試験の結果が届き、「本気で取り組まなければ！」と焦りました。先生の所へ行き、一緒にスケジュールを立て、弱点をどう克服していくかを相談しました。また先生方に、対策講座を行っていただきました。今までの傾向を踏まえた上で、ポイントを教えていただきとても勉強になりました。

あっという間に 12 月

しかし、12 月の卒業論文提出まで、しっかりと国家試験の勉強に力を入れて取り組む時間はありませんでした。

卒論提出後、国家試験の勉強をするようになってから、時間を計りながら、ひたすら過去問を解いていきました。模擬試験の見直しを行い、虫食い問題を作ったりして集中的に覚える等、工夫をしながら勉強しました。私たちの場合、学校で勉強するメンバーが多く、不安になった時は相談し合い、分からない問題は共に教え合いました。「10 期生の誓い！目指せ☆国家試験！全員合格！！」というポスターを作成し、みんなで頑張っていく気持ちを高めました。

いよいよ 1 月

正月明け、1 月 4 日～6 日にかけて香北青少年の家に行き、国家試験合宿を行いました。部屋割を少人数に設定し、1 日中勉強しかできない環境へ自らを追い込みました。先生方にもご協力いただき、休憩所の設置や、国家試験の質問等の対応など、安心して勉強する環境をつくることができました。特に西梅先生は、ずっと側にいてくれて、心強かったです！また国家試験合宿以外にも、ゼミやグループで合宿を行うところもありました。お互いにフォローし合い、みんなで国家試験に向けてラストスパートをかけることができました。そして国家試験の会場への出発前には、新藤先生に気を注入してもらったり、西梅先生に会いに行き、最後に背中を押してもらいました！

後輩の皆さんへ

国家試験の勉強は、本当に長い道のりです。でも、みんながいます。私たちの周りには応援してくれる後輩や家族、そして、支えてくれる仲間や先生方がいました。どうしようもなく不安になってしまう時もあると思います。でも大丈夫。きっと乗り越えることができます。一つひとつみんなと頑張っていってください！

付 記：

| 2010年度国家試験合格率 | 本 学 | 全 国 |
|---------------------|-------|----------------------|
| 社 会 福 祉 士（第23回） | 88.2% | 平均 28.1% |
| | 第 3 位 | 209 校中 ^{※1} |
| 精 神 保 健 福 祉 士（第13回） | 94.4% | 平均 58.3% |
| | 第 6 位 | 116 校中 ^{※2} |

※1 10名以上受験した福祉系大学等 209 校中

※2 10名以上受験した福祉系大学等 116 校中

グローバルクラブ

私たちグローバルクラブは、「国際交流」「地域交流」「ボランティア」を三本柱として活動しているサークルです。みさとフェアなどの地域のイベントやボランティアに参加しています。その中でもグローバルクラブの活動の中心を担っているのが、よさこいチーム「グローバルクラブ Japarean（高知女子大学）」です。このチームはグローバルクラブのメンバーが中心となり、Japareanのメインスタッフとしてチームを運営していきます。昨年度も多くの方のご支援・ご協力に支えられながら、踊りや地方車、チーム編成などを準備し、8月に行われる「よさこい祭り」に参加しました。

2010年のグローバルクラブ Japareanは「～繚乱～」というコンセプトで活動を行いました。このコンセプトは2008年の間休止していたものの2009年に再開することができたJapareanからまた新たな花を咲かせていこう、という想いを込めて「百花繚乱」からとりました。また、高知女子大学の学生が地域に貢献し、高知の花となっていけるように、という想いも込められています。このコンセプトの元、14名の韓国学生と高知女子大学の学生、他大学や専門学校の学生、高知女子大学の卒業生などの社会人の方々と共に、本祭2日間を踊り切ることができました。明るい笑顔が溢れ、忘れられない夏の思い出となりました。

チームを結成し、運営していく中で、自分たちが多くの方々に支えられていることに気づきました。メインを引退した先輩方も忙しい中、活動に参加してくださいました。さらに、仲間の大切さを感じることができました。怒り、悩み、時に衝突することもありましたが、それでも必死に1つのものを作り上げていくことで、仲間との絆はとても強いものになったと思います。この経験を生かして、これからも自分の精一杯の力で努力し、成長していきたいと思っています。

最後に、いつもグローバルクラブの活動にご理解とご支援を頂き、大変感謝しております。これからも高知女子大学の一サークルとして、大学や地域に根ざした活動を進めていきたいと思っています。どうか、ご支援ご指導のほどよろしくお願い致します。



太 鼓 部

太鼓部は現在2回生から4回生の計12名で活動しています。練習は週に1～2回池キャンパスの体育館で行っています。昨年度は、入学式・学祭・卒業式の学校行事に参加して太鼓を演奏しました。また、三里祭りをはじめとした地域のお祭りごとはもちろんのこと、福祉施設を訪問したりして太鼓の演奏を通して地域の人たちと交流しました。

一つの曲を仕上げるには、たくさん練習を積み重ねなければなりません。曲を仕上げる際に、毎日練習を行うので部員同士でぶつかりあうこともあります。しかし、そういったことを乗り越えることで、一つの曲が仕上がった時の喜びや達成感は大きく、同時に部員同士の絆が深まっていくのが感じられます。さらに、地域とのつながりも増えるので得るものがとても多いと思います。



また、太鼓部では地域との交流も兼ねて梶原でお米作りもしています。田植えや稲刈りの時期には梶原へ行き作業を通して、田んぼの担当農家さんや地域の人との交流を行っています。そして収穫したお米は、4回生を送る会でおにぎりなどにして食べています。自分たちで作ったお米はとても美味しく、普段触れることの少ない自然の中で農作業することは、とてもいい経験になっています。

このように太鼓部では、楽しく太鼓を叩きながら、様々な経験をすることができ、より豊かな学生生活を送ることができると思います。さらにそれらの経験は、大学を卒業した後も役に立つのではないかと思います。太鼓部の良さをより多くの人に知ってもらい、これからも皆で頑張っていきたいです。

池手話サークル

こんにちは！池手話サークルです☆私たちは、1回生から3回生の約30人で、週に1回社会福祉学部棟の一室で、本やDVDなどを参考にプログラムを組み、楽しく練習に取り組んでいます。

昨年度は、近隣地域の福祉施設に定期的に訪問し、職員の方や利用者の方々と一緒に手話や手話コーラスをするという取り組みに力を入れました。職員・利用者の方々と楽しく交流をしながら手話の日常会話や手話コーラスをすることができて、私たち自身にとっても有意義な時間となりました。また、その福祉施設の職員・利用者の方と一緒にグループホームに訪問し、手話コーラスをするという体験もすることができました。

その他には、学園祭での手話コーラスの発表や手話青年部との交流会、高知県聴覚障害者の耳の日記念集会に参加し、手話コーラスを発表するなど、たくさんの活動に挑戦してきました。特に、手話青年部との交流会では、今まで手話を学んできてはじめて、実際に耳の不自由な方と手話を使ってコミュニケーションをはかることができました。しかし、普段の練習と実際の手話のコミュニケーションではやはり違いは大きく、会話のスピードや表現・読み取りの難しさなどを実感しました。それ以降は、そういった経験も踏まえて練習の内容を改善し、組み立てていくように心がけました。

昨年度の活動を振り返ってみて感じることは、実際に手話を実践できる機会の大切さでした。やはり、学生同士での手話だけではなかなか学べないこともあるということを実感しました。これからの手話サークルの活動としては、青年部との交流の機会を積極的に設けていきたいと考えています。

手話は難しそうなイメージもありますが、それぞれの手話には由来があり、楽しく覚えることができます。これからも楽しく手話について練習していきたいと考えていますので、今後ともどうぞよろしくお願いします。



いけとべ！

私たちは日本で使われなくなった車いすを集め、旅行者に手荷物として運んでもらうという方法（輸送費はかかりません）で発展途上国に車いすをとばしています。2006年にサークルを結成して以来計14台の車いすをとばしました。

2010年度はボランティアフェスティバルでの出張メンテナンス・パネル展示、なんこくボランティアデイでの車いすを使ったゲームを行いました。

また、NPO法人「飛んでけ！車いす」の会が主催した車いすサミットに参加し、実際に活動しているNPO団体の方達との交流、車いすや国際協力の現状・課題についての意見交換や勉強を行いました。

5月には高知大学・高知工科大学・高知女子大学の国際協力系サークルの「Kレボリューション」というつながりで合宿を行いました。ここでは交流や勉強会を行いました。

広報活動や勉強以外では「ふくし機器展」でカレーの販売を行いました。

現在部員は社会福祉学部4回生4名、3回生2名、2回生4名の計10名で火曜・木曜5限に活動しています。今年は昨年よりも充実した活動が出来るように楽しんでやっていきたいと思っています。



ハモ☆イケ

ハモ☆イケとは、高知医療センターの「ハーモニーこうち」でボランティアをしているイケてる池キャンパスの学生が和気あいあいと活動しているサークルです！

メンバーは、社会福祉学部の学生で構成されており、主に授業の空き時間や放課後を使って、のびのびと活動しています☆

ボランティア内容は

*入院案内...患者さんを部屋まで案内します。(月・火・木 13:00~14:00)

*図書サービス (水・木 13:30~15:30)

*小児入院フロアでの見守り (毎日 お昼中心に随時)

*花壇の手入れや掃除など

ハーモニーこうちのボランティアさんと一緒に活動していますが、皆さんとても親切で、私たち大学生がボランティアに行くと、ボランティア後にお茶やおやつを出してくれたりなど、とても可愛がってくれます。

しかし、年々ボランティアさんの人数も減ってきており、入院患者さんの案内が週に1回しかできなくなっているなど、たくさん問題も抱えています。ハモ☆イケを立ち上げたきっかけも、「社会福祉学部のサークルとして、ハーモニーこうちを盛り上げていってくれませんか？」というボランティアさんの声でした。お隣さん同士、助け合いながら、患者さんやご家族の方たちを支えていこうじゃないか！そんな決意のもと、立ち上げたサークルです。このサークルが代々、社会福祉学部の後輩たちに引き継がれていけばいいなあと思っています。

昨年は、サークルのメンバー一人ひとりが、出来る限り月1回はボランティアに行くようにシフトを作り活動するようにしていました。しかし、なかなか授業の空き時間と来てほしいボランティアの時間が合わず、特に図書サービスや入院患者さんの案内ができていませんでした。授業もあるので難しいかもしれませんが、今後少しでもそれらのボランティア活動を増やしていきたいと考えています。

毎年行っている医療センターでのバザーや、クリスマスツリーの飾り付けなど、イベントへのボランティアには積極的に参加できました。ハーモニーこうちの皆さんと一緒に、楽しみながら盛り上げることができたので、引き続き参加していきたいと思います。

ハモ☆イケが発足して4年目になりますが、未だ試行錯誤を重ねながらの活動です。これからの継続したボランティアができるよう、皆で話し合い、協力しながら、よりよい方向へ向かって行けたらと思っています。

かんきもん

こんにちは！かんきもんです。かんきもんは、4回生13人、3回生5人、2回生18人、計36人で活動しています。かんきもんは、「農家・農業・それらを含む地域を応援したい」というコンセプトをもち、農業や農家、地域にかかわっています。

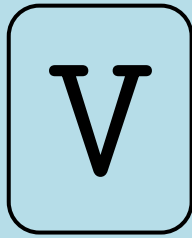
昨年は、香美市の物部地区と安芸市で柚子の収穫を行いました。柚子の収穫の際には、農家の方に道具を貸していただいたり、収穫の仕方を丁寧に教えていただいたりボランティアに行った私達の方が助けられることが多かったように思いました。しかし、作業中や休憩中に農家の方から、その土地の話や柚子のことなどを教えていただいたりと楽しく交流を持つこともでき、様々なことを学ぶことができました。

現在は、柚子の収穫しか行えていないので、今後他の農業活動にもその地域の方と一緒に参加できればと思います。

また、昨年度からは高知大学・高知工科大学・高知学園短期大学とも連携し防犯ボランティアYCPK（Young Crime Prevention in Kochi；若者防犯ボランティア in 高知）の活動も行っています。県警の方の協力のもと防犯に関するイベントへの参加や小学校の下校の見守り活動、防犯パトロール、ゴミ拾い、自転車整理等を行い地域の活性化や防犯意識の向上を目指し、活動しています。

YCPKの活動は始まったばかりということもあり手探り状態の中での活動ですが、今後は地域の防犯ボランティアの方とも連携しながら活動を行っていかれたらと思います。





卒業論文題目一覧（2010年度）

平成22年度 社会福祉学部社会福祉学科 卒業論文題目

| 教員氏名 | 題 目 |
|--------|--|
| 杉原 俊二 | 発達障害のある子どもを持つ養育者に関する支援 |
| | 里親家庭の子育て意識に関する研究 — 子育ての肯定的側面に着目して — |
| | 児童自立支援施設における被虐待児童の支援のあり方 — 非行との関係に着目して — |
| | 不登校児童・生徒が抱える家庭の問題とその支援 — スクールソーシャルワークの視点から — |
| | しつけと虐待の「境界線」に関する研究 — 児童相談所職員の判断基準に着目して — |
| 住友 雄資 | SHG支援において専門職がしてはいけないことに関する研究 — それを回避・緩和する方法を含めて — |
| | 地域体制整備コーディネーターが行う業務とその課題に関する研究 |
| 田中 きよむ | 「あったかふれあいセンター」（高知型福祉）の効果・質・継続性に関する一考察 — し～さいど鎌倉の取り組みを事例として — |
| | 精神障害者が地域で福祉的就労を継続するための環境要因に関する一考察 |
| | ホームレスの支援に関する一考察 — 人とのつながりに焦点を当てて — |
| | 中山間地域における青壮年層の地域づくり・地域活動に対する参加意識と具体的アプローチに関する一考察 |
| 宮上 多加子 | 通所サービスの利用者を対象とした満足度に関する研究 — 性別における満足度の比較 — |
| | 認知症高齢者の施設適応支援 — 環境的側面に着目して — |
| | 日常生活自立支援事業における認知症高齢者への支援 — 専門員に対する調査から — |
| 長澤 紀美子 | 生活保護現業員の対人援助に必要な能力・技術について — 研修に焦点を当てて — |
| | 児童養護施設における高等教育への進学に向けた支援過程 |
| | 特別養護老人ホームの生活相談員の業務や意識と生活相談員の専門性との関連について |
| | 高齢の血液透析患者を持つ家族の負担感 — 就労をしている家族の一事例を通して — |
| | 自主防災組織が地域の活性化に果たす役割について — 「西の地防災きずな会」における事例から — |

平成22年度 社会福祉学部社会福祉学科 卒業論文題目

| 教員氏名 | 題 目 |
|-------|--|
| 西内 章 | 住居喪失不安定就労者がネットカフェ利用に至る過程について |
| | レクリエーションの実施過程における職員の意識について — 高齢者施設の取り組みをもとに — |
| | 医療ソーシャルワーカー（MSW）の仕事に対する意識 — 自尊感情に着目して — |
| | 地域包括支援センターの業務に対する職員の認識について — 市町村合併があった地域包括支援センターに着目して — |
| | 中山間地域に暮らす高齢男性の生活満足度と人間関係の関連性 |
| 鈴木 孝典 | 障害者のきょうだいの結婚に影響を与える要因に関する研究 |
| | 精神保健福祉領域の研究における「偏見」の概念に関する一考察 |
| | 奄美大島における精神障害者に対する保健福祉活動の変化 — 精神保健福祉士と訪問看護師が行っている活動に着目して — |
| | 精神障害者の家族に対する相談支援の実態 — 保健福祉に関わるサービスの利用が少ない精神障害者の家族に焦点を当てて — |
| | 退院援助場面における医療ソーシャルワーカーの自己決定への支援 |
| 西梅 幸治 | 医療ソーシャルワークにおける家族調整支援の方法に関する研究 — 高齢者の在宅復帰場面に焦点化して — |
| | 身体障害のある人の生涯スポーツ促進に関する研究 — 環境に着目した支援に焦点を当てて — |
| | 重症心身障害のある子どもをもつ親の障害受容に関する研究 — 受容過程とそれに応じた支援に焦点をあてて — |
| | 親亡き後の支援に関する研究 — 成人期の自閉症のある子どもをもつ親の思いに焦点をあてて — |
| | 地域で孤立している家庭に対するスクールソーシャルワーク実践に関する一考察 — アウトリーチによる支援方法に着目して — |

編集後記

社会福祉学部報第13号をお届けします。

平成22年度は、学部の拡充（二倍を超える定員増）および介護福祉士養成課程が始動した記念すべき年でした。平成23年度の春を迎え、高知女子大学から、共学化・法人化された高知県立大学へと新しく生まれ変わった今、その中でも受け継ぐべきものと変わるべきものがあると感じております。

本学部は、開設以来、地域の関係機関や多くの関係者の皆様方のご支援ご協力のもと、県内外に活躍する社会福祉専門職を養成するという重要な使命を着実に果たしてきたと考えております。さらに、この変化の時期にあたり、従来からの強みであるきめ細やかな少人数制教育の良さを継承しつつ、拡充した教育体制の内実を整えていくという次なる課題に直面しています。そのような認識のもとに、今後もより良い教育体制や専門職養成のあり方を模索しつつ、さらなる工夫を間断なく続けていきたいと思っております。

今後も社会福祉学部の教育にご理解ご支援をいただきたく、本学部報を教員・学生の活動記録として多様な場でご活用くださいますよう、よろしくお願いいたします。

社会福祉学部総務委員長 長澤 紀美子

高知県立大学社会福祉学部報 第13号

発行日：2011年6月30日

発行者：前山 智（学部長）

編集：長澤 紀美子

新藤 こずえ

橋本 力

編集補助：杉村 薫（学部事務補助）

高知県立大学社会福祉学部

〒781-8515 高知県 高知市 池 2751-1

Tel 088-847-8700（代表）

Fax 088-847-8672（学部専用）